

施設整備コンセプト（案）について

(1) 「新たな学校施設のあり方」を取り巻く状況

①新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方（文部科学省：学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議）

《新しい時代の学び舎として目指していく姿》

- ・新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮するものとして、その中心となる「幹」に『学び』を据え、その学びを豊かにしていく「枝」として『生活』『共創』の空間を実現する。
- ・また、新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進していく「根」として『安全』『環境』の確保を実現する。



学び
単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿

学び
学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせ、読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿

学び
教室と連続する空間も活用し、高性能のコンピュータ室を専門的で高度な学びを誘発する「デザインラボ」としていく姿

学び
映像編集やオンライン会議のためスタジオ、情報交換や休憩ができるラウンジなど、円滑に業務を行える執務空間としていく姿

生活
木材を活用し温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿

共創
地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿

安全
長く使い続けることができるように安全性を確保し、子供たちの学び・生活の場、地域のコミュニティの拠点としていく姿

環境
省エネルギー化や再生可能エネルギーを導入等を積極的に進め、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たしていく姿

②掛川市の関連計画等

教育大綱かけがわ【H28年～10年間】

■目指す姿：

- ・変化の激しい社会で生き抜く力を備えているひと
- ・多様な人々を結び、地域でもグローバルにも活躍できるひと
- ・高い目標をもち、新たな価値の創造にチャレンジするひと
- ・自律する心を持ち、他者の考えや痛みに共感できるひと
- ・豊かな心や健やかな体に高めていくひと

■基本方針：

- ・こころざしと学ぶ意欲を育てる人づくり
- ・市民総ぐるみによる学びの環境づくり
- ・未来志向のまちづくり
- ・かけがわ未来プロジェクト

第2期掛川市教育振興基本計画「人づくり構想かけがわ」【令和元年度～令和7年度まで】

■基本目標

夢とこころざしを持ち、ともに学び、豊かな未来を創造するひと

■計画の主な内容

- ・静的なイメージから「創造」という動的なイメージに変更し、市民が新たな価値にチャレンジしたり、人と協力して豊かな未来を創り上げることを推し進めていきます。
- ・**市総ぐるみの教育**：を新たにに加え、地域の教育力や家庭の教育力を生かした教育
- ・**乳幼児教育**：公私立、幼稚園や保育園などの園種の枠を越えて、教育関係者が一体となって乳幼児教育の充実
- ・**学校教育**：学習指導要領の全面実施に向けて、確かな学力育成のための授業改善に取り組むとともに、情報教育や外国語教育の充実
- ・**社会教育**：家庭教育力の向上をめざして家庭教育支援員の派遣や学習機会等の充実
- ・**図書館**：すべてのライフステージを横断する、知の拠点として位置付け、あらゆる世代に対応した施策を展開

(2) ワークショップを踏まえた施設整備の考え方の整理

1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間づくり

<ソフト面>

●児童生徒の興味・関心を大切にし、個性を活かした探求の場づくり

- 引き継ぎたいこと**
- ・やっぱり“学力”は重要（さらに向上させていただきたい）
 - ・基礎学力の充実、授業で勝負！
 - ・英語を使った授業
 - ・一人一人の発表力をのばす活動
- 通いたいと思いたいこと**
- ・「やってみたい」と思ったことがとりえあえずやれる**チャンスのある場**（物も人も）
 - ・思い出が作れる学校
 - ・校門から昇降口までの道に**物語**があると思いが生まれる
 - ・どの子も**主役**（一人一人が主役）
 - ・生きる力（課題を見つける、考える力、解決する力、表現する力）を増進させる学校
 - ・子どもの**個性を大切に**する、個性を伸長させる授業展開



GIGA スクール構想の取り組み



発表の場づくり



個人の関心を探求する場づくり

●コミュニケーションを大切にした協働的な学びの場づくり

- 引き継ぎたいこと**
- ・コミュニケーションを大切にする教育の推進
 - ・人間関係づくりを大切にする学校（仲間づくり、集団づくり）
- 通いたいと思いたいこと**
- ・色々な意見を認め合える学校
 - ・字をしっかりと書く学校



協働的な学びの時間



ICTの活用で新たな「学び」

●児童生徒と教職員の日常的な信頼関係において、学び～生活まで相談できる環境づくり

引き継ぎ
たいこと

・教科担任制（専門の教員）から楽しく!! 学ぶ!

通いたい
通わせたいと
思うこと

・教職員の笑顔



中学校教員による小学校への乗り入れ授業

●企業等との連携・協働による総合的な学習

引き継ぎ
たいこと

・夢原里学習（総合的な学習）

通いたい
通わせたいと
思うこと

・地域の産業、特産品などと触れ合う体験、授業
・特別講師を招いて授業（部活動）を行う



夢原里学習

原田小の事例

●9年間見通し、縦割りレクリエーション等で培った異年齢交流の場づくり

《異学年との交流》

引き継ぎ
たいこと

・あんりとの交流
・なかよし班活動
・上の学年、下の学年との濃密な交流活動
・縦割りグループでの活動
・学年の垣根を越えた縦割りレクリエーション活動

通いたい
通わせたいと
思うこと

・他学年とのかかわり
・少人数の地域であるので幼児から中学生まで一体となれる学校
・異年齢交流スペースを広くゆったり
・異年齢の人たちが触れ合える空間

《合同行事》

引き継ぎ
たいこと

★小中合同運動会、文化祭、発表会
★小・中・地域・(園) 合同の運動会
★小中合同の体育的、文化的行事



異学年合同朝礼の例



ランチタイムでの異学年交流



小中一貫運動会の例

<ハード面>

●明るく温かな雰囲気でも過ごしやすい、ゆとりのある教室

通いたい
通わせたいと
思うこと

・温かな雰囲気のある教室の学校
・教室が明るい（採光）
・過ごしやすい空間（暑さ・寒さ）

●柔軟に対応できる多目的スペース

引き継ぎ
たいこと

・合唱発表会みたいなもの

通いたい
通わせたいと
思うこと

・アートスペース（児童・生徒以外の地域の方が作品を展示して披露できるスペース）
・教室と廊下の境のない学校

●読書・学習・情報のセンターとなる魅力的な学校図書館（ラーニングセンター）

引き継ぎ
たいこと

・総合の時間を活用した探究活動

通いたい
通わせたいと
思うこと

・ICT環境が整ったパソコンやiPadを使用して高度に学べる教室設備を整えてほしい
・パソコン室（地域の人も通えるセミナーにも）
・行きたくなるようなオシャレなデザイン
・敷地内 Wi-Fi



木製の引き戸を開閉し多彩な学習・生活の場をつくりだせる普通教室（魚津市立星の杜小学校）



通常時は廊下となるオープンスペースは、同学年の児童が集まる場としても機能（東海村立白方小学校）



図書室は総合メディアセンターとしてコンピュータールームと一体化し、校舎の中心に配置されている。新しく入った本の紹介や、読書週間等のおすすめの本コーナーを、小中それぞれに設置している。（府中学園）

2 児童生徒の心のゆとりを生む、健やかな学習・生活空間づくり

●児童生徒の居場所となる空間づくり

通いたい
通わせたいと
思うこと

- ・ 土日でも学校で遊べるとよい
- ・ 飽きのこない**運動場**
- ・ どんな性格、個性、興味関心を持つ子どもでも**のびのび楽しくすごせる**



学校内の居場所づくり

●児童生徒がリラックスできる空間づくり

通いたい
通わせたいと
思うこと

- ・ ひとりで静かにすごしたい時にも居場所がある
- ・ 不登校傾向や特性の強い子ども**安心できる居場所**



リラックスできる
空間づくりの例

3 まわりの豊かなみどりに調和し、自然を感じることでできる施設づくり

●周辺環境との調和を意識した施設

通いたい
通わせたいと
思うこと

- ・ **緑の多い学校**（皆で育てる花・野菜）
- ・ 教室の窓から見る**景色も思い出に残る**
- ・ **広い校庭**がある
- ・ **中庭で食事が食べられる空間**



芝生の校庭



緑を基調としたデザイン



芝生広場に改修した中庭

4 地域とのつながり・交流を大切にし、ともに創造する共創空間づくり

<ソフト面>

●地域の活動・交流拠点

引き継ぎ
たいこと

- ・ 地域との交流を大切にしている
- ・ 原田地区と子どもたちの交流
- ・ 区長会やまち協との協力関係はさらに強化していきたい
- ・ 学校行事、運動会とかを地域の人が見学できる
- ・ 原野谷学園フェスは続けてほしい、地域・小中園が集う場として必要がある
- ・ 地域の方がどんどん学校・授業に入りこむ
- ・ 原田地区ならではの田植えや農業活動（地域との交流）
- ・ 原一レタシー（原田、原谷、原野谷が1番）
- ・ 地域や学校外の力を積極的に取り入れる学校
- ・ 地区祭典の次の日は休み
- ・ 学校の創立記念日をつくる
- ・ 自由に運動場が使用できる

通いたい
通わせたいと
思うこと



体育館等の地域開放



（原野谷中）3年DIG体験



（こども広場あんり）読み聞かせ

●地域と共に育む教育環境

引き継ぎ
たいこと

- ・ 通学時の安全など子どもが感じることを地域の人に伝える
- ・ 読み聞かせ（保護者・地域の方）、読み聞かせボランティア
- ・ 地域とともにある学校
- ・ 地区の方々と交流しながらの学習
- ・ 保幼小中連携した清響祭を続けてほしい

通いたい
通わせたいと
思うこと

- ・ 給食のバリエーション、地域の特産品をメニューに活用



地域の方が先生の授業



地域開放された図書館



地域の方も気軽に來れるランチルーム

● 伝統文化の継承

引き継ぎ
たいこと

- ・ 清響祭で原田小の児童が披露した伝統的な神楽の舞
- ・ 地域の伝統に参加
- ・ 昔のおもちゃ、遊びを年寄りが教える



小学校に郷土資料館を併設した例



清響祭での神楽

<ハード面>

● 地域の活動・交流拠点

通いたい
通わせたいと
思うこと

- ・ 地域住民との交流が自然にできる施設整備
- ・ 会議やミーティングなど地域の方々が自由に利用できる場所



内外一体で利用できる多目的室
(ランチルーム)



地域と一体で利用できるホール



地域と一体で利用できる多目的室

● 公共施設等の複合化・共用化

引き継ぎ
たいこと

- ・ 公民館一体型→交流会
- ・ 学童保育所の充実

通いたい
通わせたいと
思うこと

- ・ 学童保育の環境を整えること (預けたい親も多い)
- ・ 図書館の地域利用
- ・ 地域の方も使える屋内プール
- ・ 校内バス (スクールバス?) があると様々なことに利用できる



地域住民が自由に利用できる地域に開かれた図書館。市立図書館資料は一般の方も貸し出し可能。



公民館を併設した小学校の例

5 児童生徒が安心・安全に配慮した地域の防災拠点づくり

<ソフト面>

● 通学時の安全の確保

通いたい
通わせたいと
思うこと

- ・ 通学路の安全や通い方
- ・ 従来通り徒歩で通学させたい
- ・ ドライブスルー (保護者が子どもを送迎するのに配慮した構造)



学校施設内の歩車分離



スクールバス等の安全な乗降



学校周辺の横断歩道の実証実験

<ハード面>

● 避難所機能の充実 (自家発電、情報通信設備 など)

通いたい
通わせたいと
思うこと

- ・ 丈夫な建物
- ・ 災害時に心配のない建屋設備を考えてもらいたい (安全安心な学校)



防災設備を通した学び



止水版の例



ピロティ空間

● バリアフリーに配慮した施設

通いたい
通わせたいと
思うこと

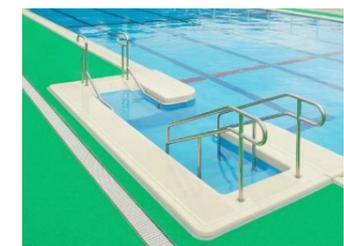
- ・ バリアフリープール



誰もが移動しやすい動線の確保



多目的トイレ



車いすにも対応したプール (民間)

ワークショップの実施方法について

1 ワークショップのテーマ

メインテーマ

新しい学校に欲しい機能・施設について

グループテーマ

A・Bグループ：地域で利用するときに欲しい機能・使い方

C・Dグループ：子どもたちが学ぶ場として欲しい機能・使い方

Eグループ：教職員が使用する視点で欲しい機能・使い方



今回はグループごとに視点を変えてアイデアを出していただきます。

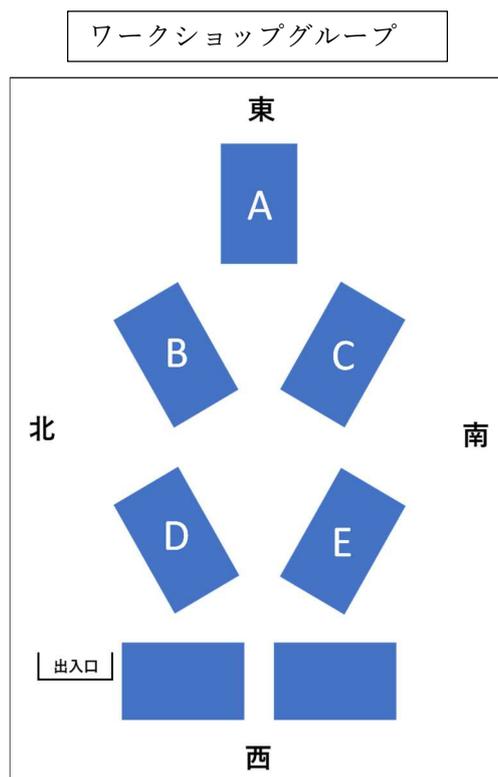
2 ワークショップの方法

- ① まずは各自でグループテーマに沿って、案を付箋に書き出します。(8分)
欲しいと思う機能・施設に対して、どんな使い方をしたいかも具体的にイメージしてみてください。付箋への記入もお願いします。
- ② ①で考えたものをグループ内で発表していただきます。(15分)
似たような内容をグループ化してまとめたり、出された意見をもとに深掘りをしていただいてもOKです。
- ③ グループ内で出た意見を取りまとめ、1グループ2分程度で発表していただきます。
発表していただくのは、名簿のグループ分けのアルファベットが○で囲まれている方をお願いします。グループごとにテーマが異なるため、別のグループの発表後には質疑応答を実施いたします。(17分)

3 注意事項

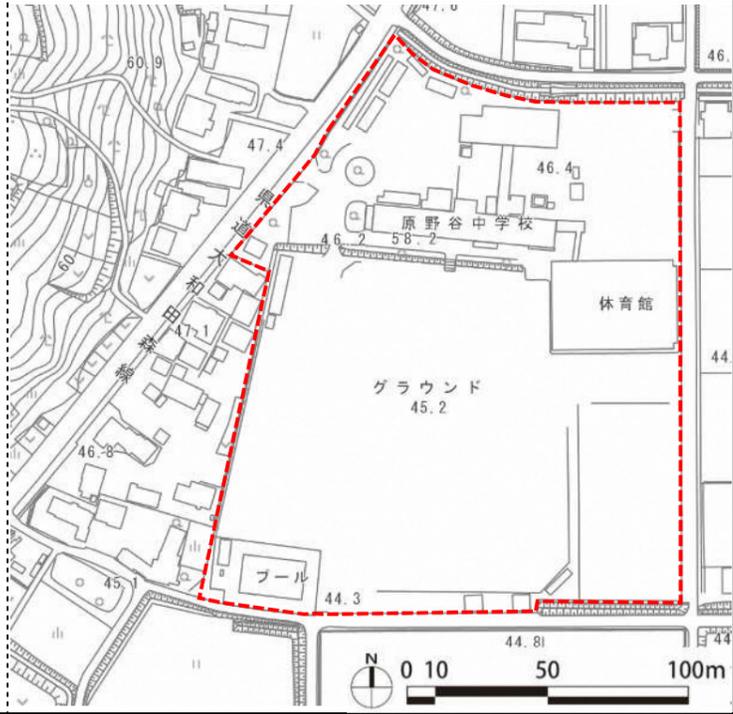
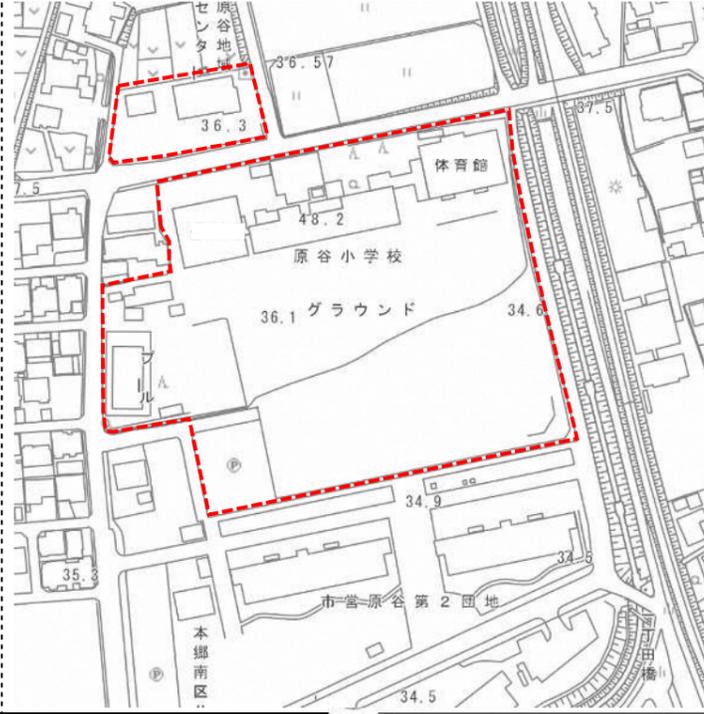
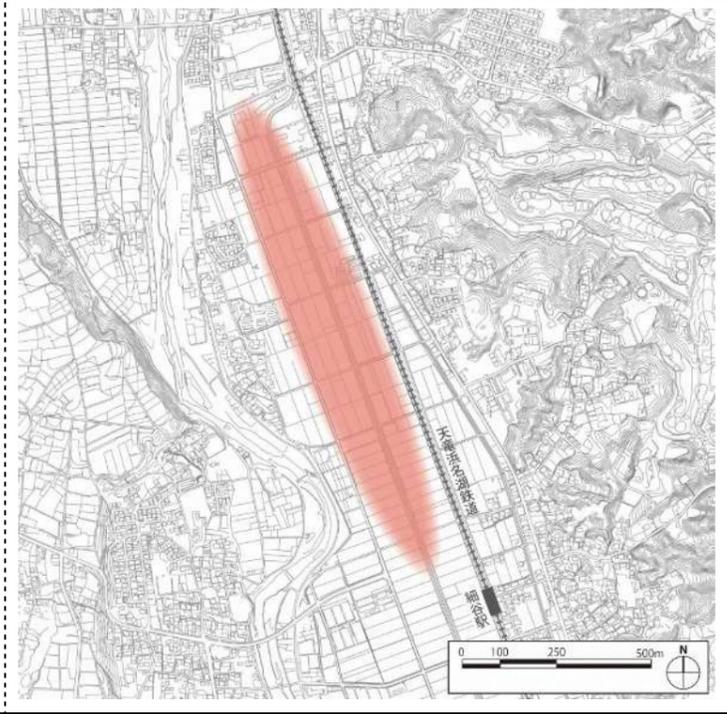
- ・発言は簡潔明瞭に。
- ・人の意見は最後まで聞く。
- ・人の意見を否定しない。
- ・このワークショップは結論を1つにまとめるものではありません。できるだけたくさんの御意見を出していただくようにお願いします。

※各グループには進行役の事務局の職員が1名いますので、方法等で不明な点などがありましたら質問してください。



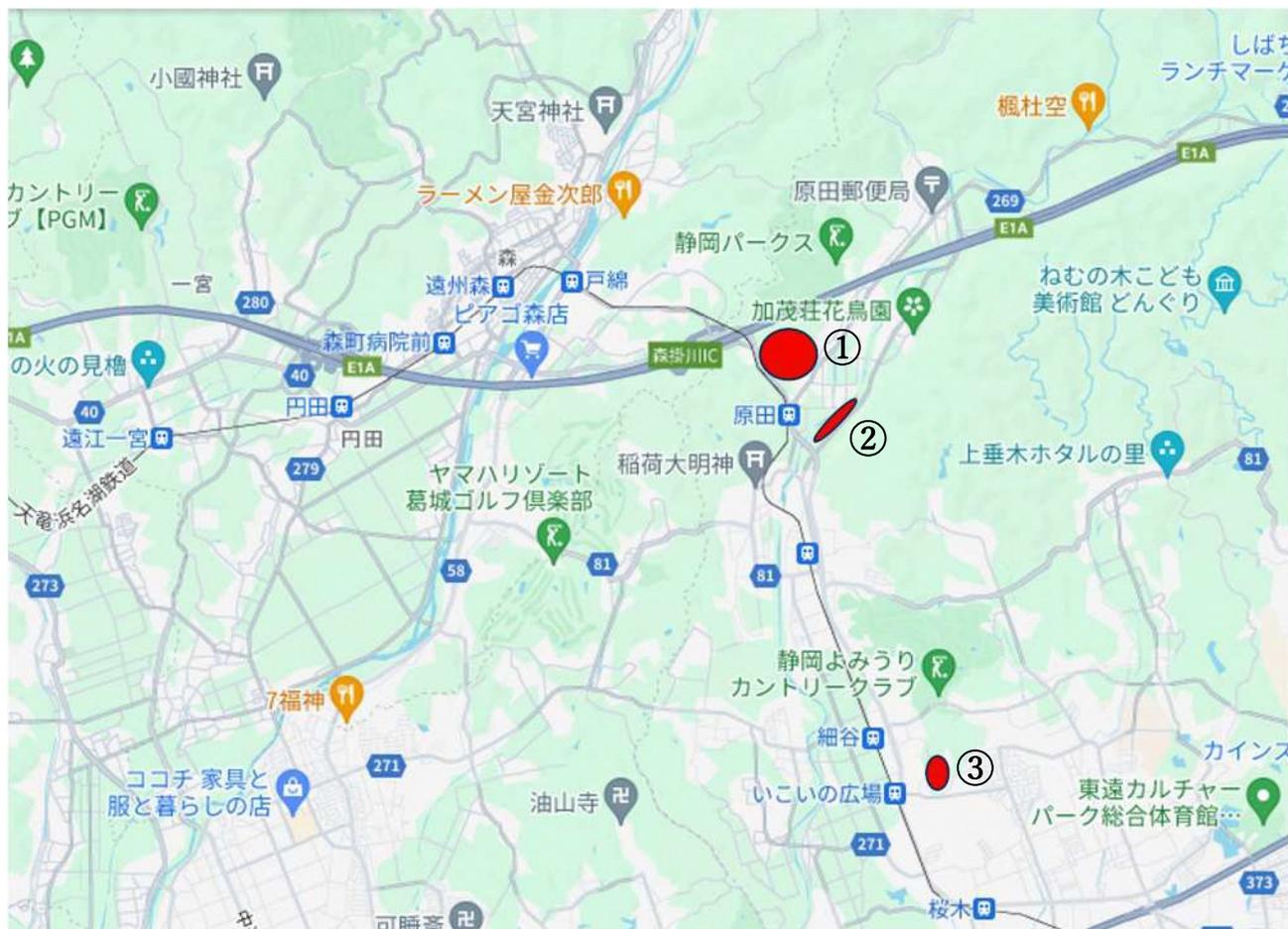
原野谷中小中一貫校整備 施設候補地の評価及び課題の比較

◎：優れている ○：やや優れている △：やや劣っている ×：劣っている

	評価	候補地1：原野谷中学校	評価	候補地2：原谷小学校	評価	候補地3：市営住宅原谷団地南方の農地
概要		・現在の原野谷中学校の敷地に小中一貫校を建設する。		・現在の原谷小学校の敷地に小中一貫校を建設する。		・農地（民有地）を取得し、小中一貫校を建設する。
現況図						
候補地の面積 用地取得の必要性	◎	・31,707㎡（台帳地積） ・市有地面積：31,707㎡ 用地取得必要面積：0㎡ 内訳 建物敷地：9,682㎡ グラウンド22,025㎡	△	・23,474㎡（台帳地積） ・市有地面積：23,474㎡ 用地取得必要面積：0㎡ 内訳 建物敷地：4,240㎡、グラウンド：17,562㎡ その他（郷土資料館・クラブハウス）：1,672㎡	×	・30,000㎡（仮定面積） ・市有地面積：0㎡ ・用地取得必要面積：30,000㎡
学校環境	◎	・敷地形状は概ね整形であり、校舎、グラウンド、テニスコート、駐車場（スクールバス乗降場含む）等について、比較的ゆとりある環境整備が可能である。 ・現在の敷地内での小中一貫校整備は可能である。	△	・敷地形状は概ね整形であるが、校舎、グラウンド、テニスコート、駐車場（スクールバス乗降場含む）等のゆとりある配置が困難である。 ・小学生用・中学生用それぞれのグラウンドが確保できないため、兼用のグラウンドとなる。	×	・学校敷地を比較的整形な形状で確保しようとする普通河川（法定外河川）をまたぐこととなる。河川を跨いで建物配置することができないため、校舎・体育館の配置やグラウンド等の配置に大きな制約が生じることが想定される。
通学手段	◎	・徒歩・自転車圏内の児童生徒数は全体の約90%、スクールバス圏の児童生徒数は約10%であり、スクールバス利用の経費削減を図ることができる。 ・敷地内にスクールバス駐車場、乗降場のスペースが必要である。	◎	・徒歩・自転車圏内の児童生徒数は全体の約90%、スクールバス圏の児童生徒数は約10%であり、スクールバス利用の経費削減を図ることができる。 ・敷地内にスクールバス駐車場、乗降場のスペースが必要である。	○	・徒歩・自転車圏内の児童生徒数は約87%、スクールバス圏の児童生徒数は約13%であり、スクールバス利用の経費削減を図ることができる。 ・敷地内にスクールバス駐車場、乗降場のスペースが必要である。
候補地の安全性	△	・外水氾濫想定は、浸水深0.5～3.0m未満である。グラウンド地盤面が低いため、校舎等施設の配置は、現在の校舎配置場所が望ましい。 ・または、1階部分は耐震性を確保したピロティ構造の検討や建設地の地盤面を盛土するなどの検討が必要である。	△	・外水氾濫想定は、浸水深0.3～3.0m未満である。 ・1階部分は耐震性を確保したピロティ構造の検討や建設地の地盤面を盛土するなどの検討が必要である。	△	・外水氾濫想定は、浸水深0.3～3.0m未満である。 ・1階部分は耐震性を確保したピロティ構造の検討や建設地の地盤面を盛土するなどの検討が必要である。
経済性	○	・配置計画によっては造成工事を伴わないことが可能である。	○	・配置計画によっては造成工事を伴わないことが可能である。	×	・農地（民有地）の買収には、約3億円の費用が必要と想定される。 ・農地の造成・地盤改良等は、約4億円の事業費が必要と想定される。

	評価	候補地 1：原野谷中学校	評価	候補地 2：原谷小学校	評価	候補地 3：市営住宅原谷団地南方の農地
事業スケジュール	◎	<ul style="list-style-type: none"> 建設に係る制約条件が少ないため施設整備に関する検討が比較的容易であり、事業スケジュールと事業費の見通しが立てやすい。 令和 11 年開校は可能である。(仮設校舎建設する場合は令和 10 年開校を想定できる) 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 建設に係る制約条件が少ないため施設整備に関する検討が比較的容易であり、事業スケジュールと事業費の見通しが立てやすい。 令和 11 年開校は可能である。(仮設校舎建設する場合は令和 10 年開校を想定できる) 	×	<ul style="list-style-type: none"> 用地取得、造成工事（養生期間を含む）及びインフラ整備工事で約 6 年間のスケジュールを見込む必要があり、令和 14 年以降の開校となる。地権者調整・合意形成の状況によっては、更に長期化する可能性もある。 土地利用現況が農用地の場合は、農振除外の手続きが必要となる。 開発許可手続きが必要となる。
総合評価	◎	<ul style="list-style-type: none"> 既存の学校敷地を活用するため、整備スケジュールや事業費の見通しが立てやすい。 校舎の建設位置によっては仮設校舎が必要になる。(現校舎のある北側敷地面の方が南側のグラウンド面と比べて高いことから、北側に校舎を整備するのが望ましい。既存校舎を極力残した状態で新校舎の整備が可能か検討を行う必要がある。) 洪水浸水想定については 1 階のフロアレベル等を検討し、学校施設の基幹設備は 2 階以上に計画するなどの対応策が必要である。 敷地面積が広く、ゆとりある学校環境の整備が可能である。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 既存の学校敷地を活用するため、整備スケジュールや事業費の見通しが立てやすい。 敷地南側に校舎を整備することで仮設校舎は不要となる。ただし、建設工事中はグラウンドの利用に制約がある。 洪水浸水想定については 1 階のフロアレベル等を検討し、学校施設の基幹設備は 2 階以上に計画するなどの対応策が必要である。 敷地面積に余裕がないため、施設配置上の制約がある。 	×	<ul style="list-style-type: none"> 農地の用地取得費、造成工事費が必要となり、総事業費が増加する。 事業スケジュールの見通しが立てにくく、小中一貫校建設事業が長期化する。

■他の候補地について



①原野谷中西側の山林農地

- ・茶園造成計画があり、すでに設計に着手している状況であり、現段階では学校用地とすることは困難です。

②本郷西区寺田モータース東側の農地

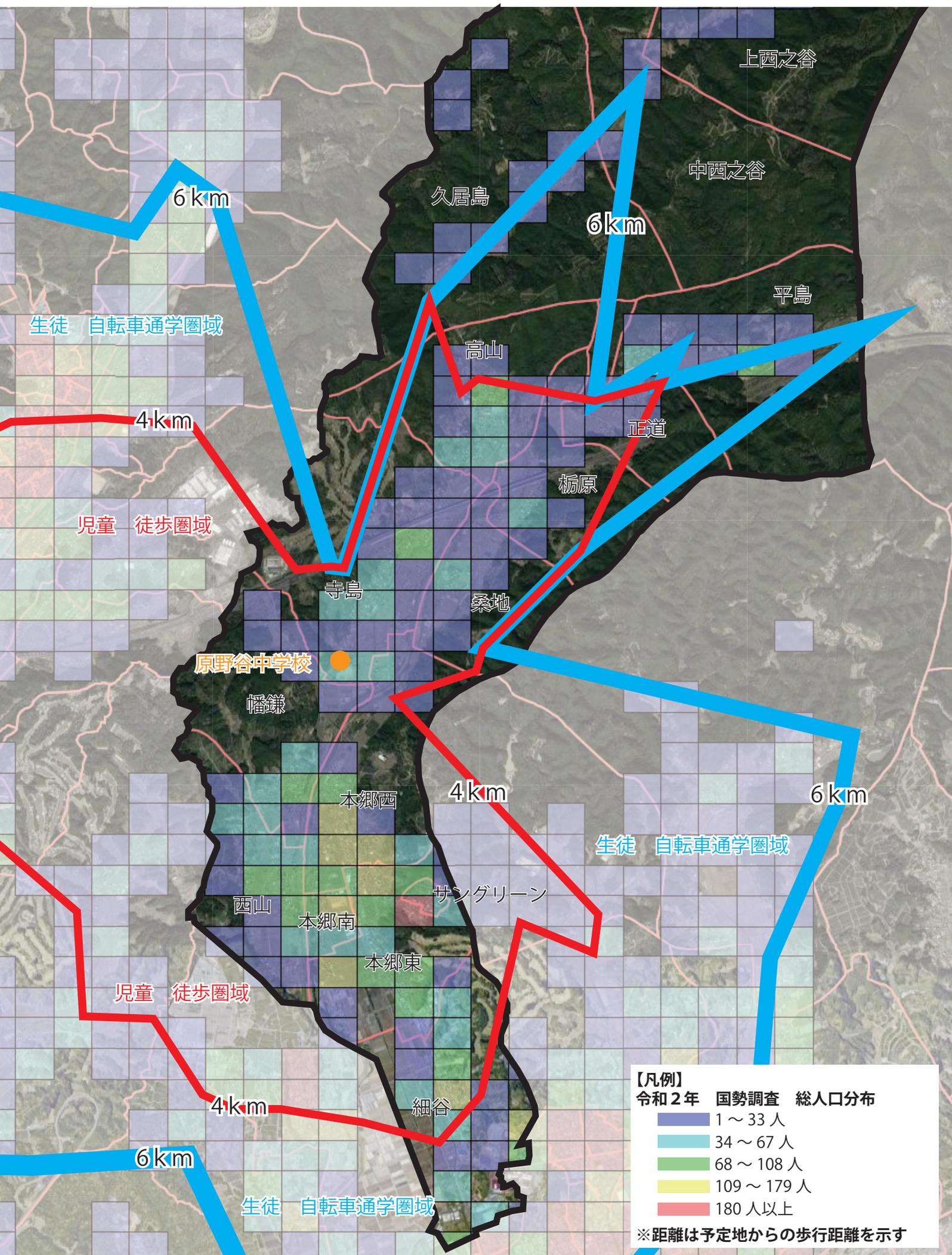
- ・土地の形状が細長いことから、施設の配置に制約が生じます。また、細長い形状であり、南西側の山が急傾斜地崩壊のおそれがある、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域に指定されていることから、候補地とするには適さないと考えます。

③いこいの広場

- ・学区の中でも南端に位置しており、北部地区の子どもたちの通学距離が増えてしまうことから、原野谷学園の候補地には適さないと考えます。
- ・都市計画法の都市公園に位置付けられており、用途変更は不可能ではないが手続きに時間を要します。

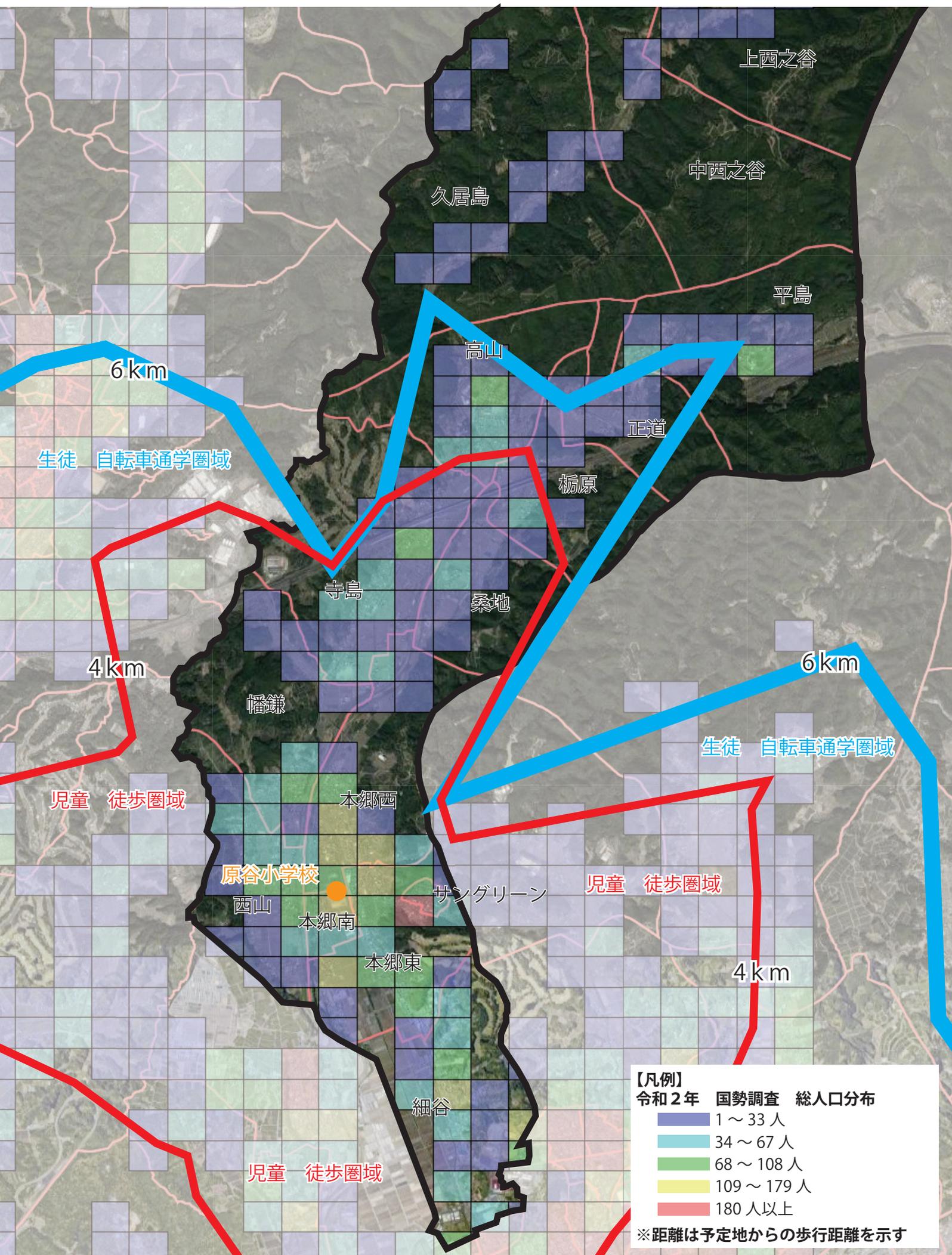
資料4 原谷中学校区の人口分布の状況

【候補地1：原野谷中学校】



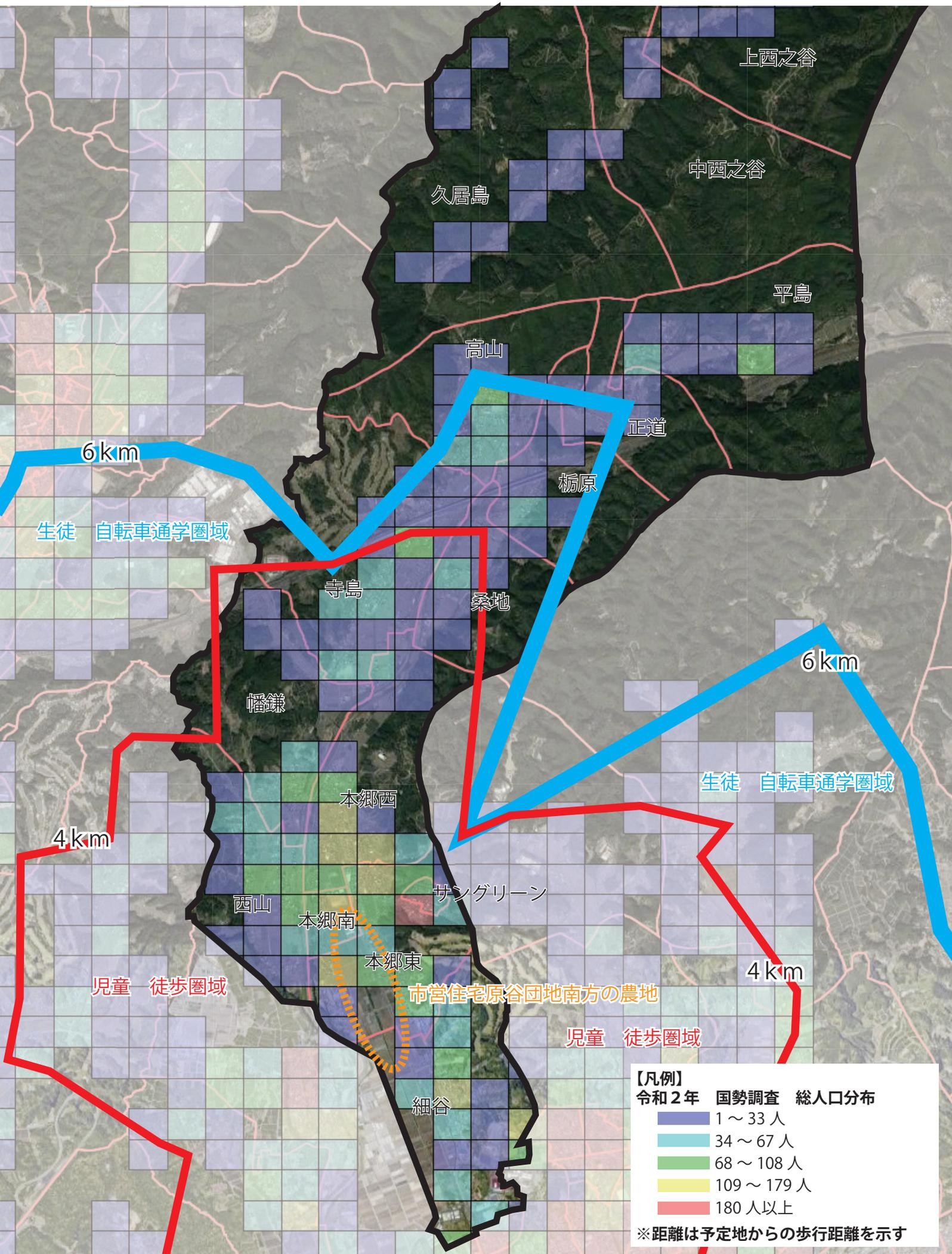
資料4 原谷中学校区の人口分布の状況

【候補地2：原谷小学校】



資料4 原谷中学校区の人口分布の状況

【候補地3：市営住宅原谷団地南方の農地】



【凡例】
 令和2年 国勢調査 総人口分布

- 1～33人
- 34～67人
- 68～108人
- 109～179人
- 180人以上

※距離は予定地からの歩行距離を示す

原野谷学園新たな学校づくり

検討委員会だより

発行：掛川市教育委員会



！ \ 学校づくりに向けた検討をスタート / ！

原野谷学園小中一貫校の整備に向けて、検討委員会を設置しました。令和5年11月14日に原野谷中学校にて、第1回目となる「原野谷学園新たな学校づくり検討委員会」（以下検討委員会）を開催しました。

☺ 検討委員会の目的

この検討委員会では、原野谷学園をどのような学校にしたいのかを委員の皆様と検討し、小中一貫校のコンセプト（基本構想・基本計画）と設計概要（基本設計）を作成していきます。

すべて順調に進んだ場合には、最短で令和10年4月の小中一貫校の開校を見込んでいます。

☺ 検討委員の皆様

以下の皆様と検討を進めていきます。（敬称略）

亀井 暁子	静岡文化芸術大学 デザイン学部 教授	田宮 玲子	原谷小 PTA 保護者
草賀 章吉	市議会議員	戸塚 昭裕	原田小 PTA 保護者
佐藤 方弘	原谷地区 区長会	久保田 典子	原野谷中 PTA 保護者
杉山 嘉一	原田地区 区長会	山本 千恵	統括地域コーディネーター
吉井 大	原谷地区まちづくり協議会	鈴木 宏美	こども広場あんり園長
白畑 喜久雄	原田地区まちづくり協議会	岡本 裕之	原谷小学校長
三浦 亜紗水	原谷地区乳幼児を持つ保護者	沖 孝子	原田小学校長
戸塚 亜弥	原田地区乳幼児を持つ保護者	岡田 智行	原野谷中学校長
佃 直人	こども広場あんり保護者	久保田 柁博	原谷小学童保育所長
土井 由紀子	こども広場あんり保護者	草賀 三紀子	原田学童保育所

より良い学校をつくるために、地域の皆様のお声を、委員の皆様や説明会等の機会を通してお聞かせください！

第1回 検討内容

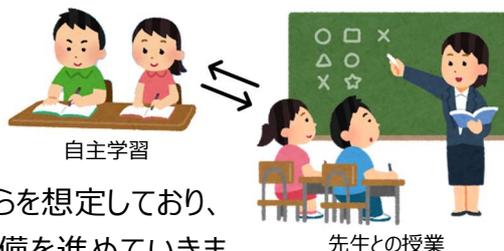
委員会運営についての検討や「新しい学校づくりで大切にしたいこと」についてのワークショップも行い、小中一貫校建設に向けた具体的な内容について話し合いました。トピックを3つご紹介します。

【令和7年4月から原田小学校を統合】

令和7年度4月から、原田小学校に複式学級が発生する見込みです。平成29年度からの地域での検討内容も踏まえ、学校再編に先立って、**原田小学校を原谷小学校へ統合すること**を決定しました。

※複式学級とは、1つの教室で1人の先生が2学年を教えるクラスのことです。授業の約半分が自主学習になります。

統合時期は**令和7年4月**からを想定しており、今後関係者と統合に向けた準備を進めていきます。



【学校建設地を検討中】

新しい学校の建設地として、委員会にて候補地案を検討しました。

今後、専門業者の調査に基づいて、広さ・スクールバス運行条件・土地整備条件・費用・整備期間等様々な面から比較を行い、引き続き検討していきます。

説明会を開催し、地域の皆様からご意見をいただきたいと思っています。ご協力の程よろしくお願ひします。

【学校形態（施設一体型）を決定】

小中一貫校の学校形態としては下記の3種類があります。原野谷学園は「施設一体型」が望ましいとして平成31年に地域から提言をいただいていた。いわゆる「中1ギャップ」の解消等を図る小中一貫教育の推進のために、検討委員会でも改めて「**施設一体型**」で建設を進めるとして合意しました。

施設分離型（現状）

小学校と中学校が離れた場所にある



施設隣接型

小学校と中学校が同一敷地内に併設、または隣接した敷地にある



施設一体型

小学校と中学校が同一の校舎内にある



次回は…！【建設地・整備コンセプトの検討】等を予定しています。

第2回原野谷学園新たな学校づくり検討委員会では、建設地の検討と、原野谷で小中一貫校を建設するにあたっての基本コンセプトの検討等を行う予定です。

第2回検討委員会

日時：令和5年12月12日 午後7時～

場所：原野谷中学校 2階 図書室

1月13日(土)午後2時～ 地域説明会を行います！

原野谷中学校 体育館にて、建設地と複合する公共施設について、検討状況をご説明します。

皆様からの貴重なご意見をぜひお聞かせください！

ご意見・ご質問等ございましたら、お気軽に
掛川市教育委員会 教育政策課 学校再編室
までお問い合わせください！

〒436-8650 掛川市長谷一丁目1-1
TEL：0537-21-1155 FAX：0537-21-1222
Email：gaku-somu@city.kakegawa.shizuoka.jp



原野谷学園新たな学校づくり

検討委員会だより

発行：掛川市教育委員会

第2回検討委員会を開催しました

令和5年12月12日に原野谷中学校にて、第2回目の「原野谷学園新たな学校づくり検討委員会」（以下検討委員会）を開催しました。第2回は主に整備コンセプト検討のワークショップと、建設地の検討を行いました。

【整備コンセプト検討のためのワークショップ】

第1回・第2回検討委員会において、ワークショップを実施しました。そこでの検討内容を一部ご紹介します。

第1回テーマ：「新しい学校づくりで大切にしたいこと」

今の学校の活動で、再編後も引き継ぎたいこと

- ・原野谷学園フェスティバル
- ・地域と子どもたちの交流

地域

- ・小・中・地域合同の運動会
- ・清響祭
- ・合唱発表会

学校行事

- ・小中合同文化祭・発表会

- ・基礎学力の充実／英語の授業
- ・夢原里学習（総合的な学習）

学び

- ・字をしっかりと書く
- ・個性を大切に、伸ばさせる授業

- ・学年の垣根を超えた活動
- ・あんりとの交流

異学年交流

- ・幼児から中学生まで一体に！

学童保育

スクールバス運行

自校給食

バリエーション増

読み聞かせ
ボランティア

施設充実

- ・温かな雰囲気、廊下と境のない教室
- ・広い・飽きのこない・土日也能用な運動場
- ・ICT環境(敷地内 Wi-Fi、高度に学べる設備)整備
- ・災害時に心配のない丈夫な建物



- ・清響祭で披露した神楽の舞
- ・地域の伝統行事への参加

伝統

【整備コンセプト検討のためのワークショップ】

第2回テーマ：「新しい学校に欲しい機能・設備とその使い方」

【学校建設地の検討】

下記を候補地として調査・検討を進めています。

<u>XXX</u>	<u>XXX</u>	<u>XXX</u>
------------	------------	------------

次回は！【整備コンセプト】と【建設地】、【複合施設】の検討等を予定しています。

第3回原野谷学園新たな学校づくり検討委員会では、基本コンセプトと建設地を決定し、また複合施設についても検討を行う予定です。

第3回検討委員会

日時：令和6年1月23日 午後7時～

場所：原野谷中学校 2階 図書室

**1月13日(土)午後2時～ 原野谷中学校 体育館にて
地域説明会**を行います。皆様からの貴重なご意見をぜひお聞かせください！

ご意見・ご質問等ございましたら、お気軽に

掛川市教育委員会 教育政策課 学校再編室

までお問い合わせください！

〒436-8650 掛川市長谷一丁目1-1

TEL：0537-21-1155 FAX：0537-21-1222

Email：gaku-somu@city.kakegawa.shizuoka.jp



原野谷学園

新たな学校づくりに向けた

地域説明会

＼皆様のご意見をお聞かせください／

日時

1月13日(土)
午後2時～3時

場所

原野谷中学校

体育館

会場は寒いため、
防寒着をお持ちください！

〒436-0106 掛川市寺島15

事前の申し込み等は**不要**です！
直接会場までお越しください。

＜内容＞

建設候補地について

建設候補地となっている土地
について、調査情報等を
お伝えします。

複合化施設について

学校に併設する公共施設
について、現在の検討状況
をご説明します。

【お問い合わせ】

教育委員会学校再編係

TEL：0537-21-1155

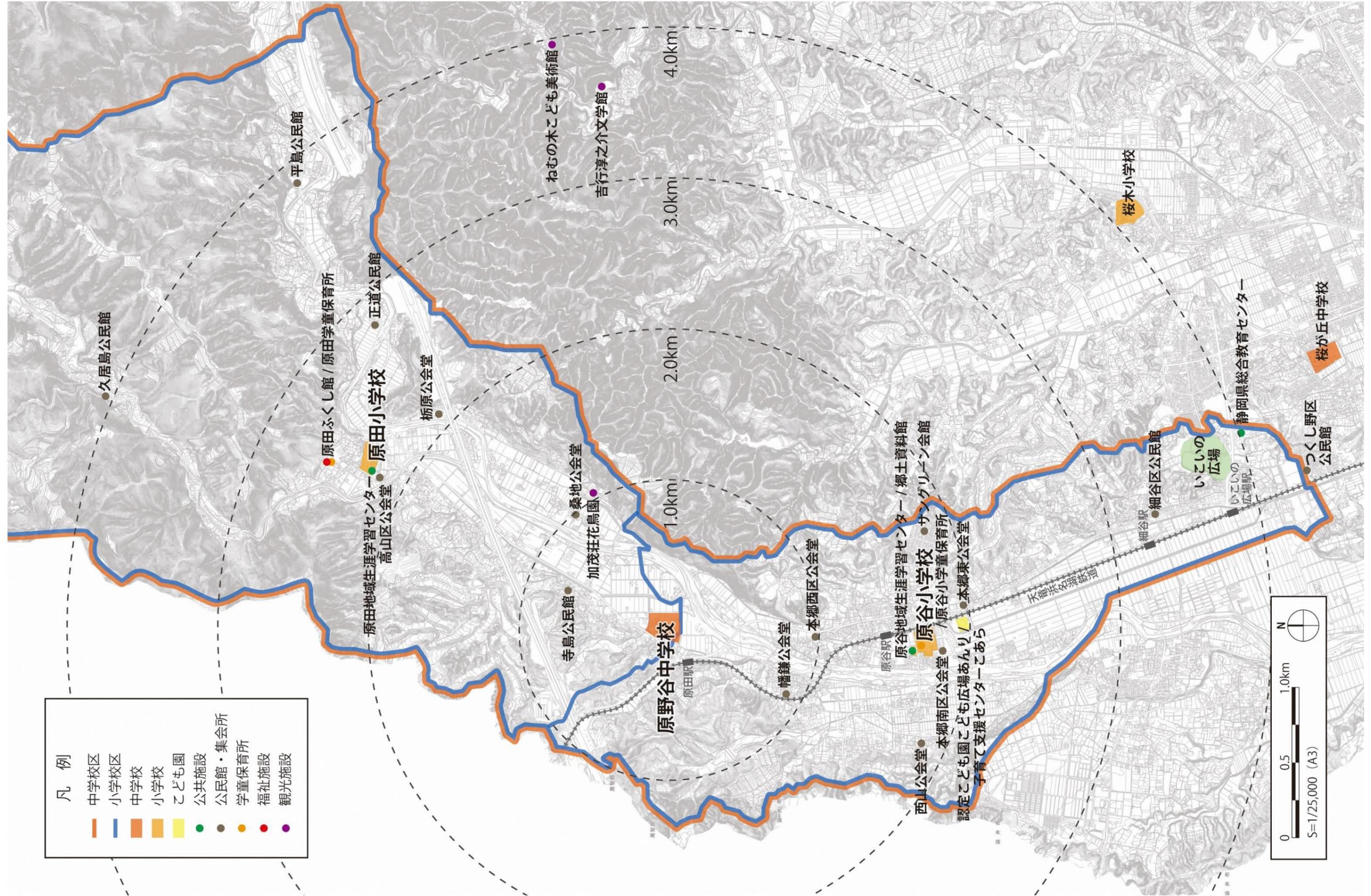
FAX：0537-21-1222

Email：gaku-somu@

city.kakegawa.shizuoka.jp

原野谷中学校区における主要施設の位置

※施設間の距離を把握するため、本図では原野谷中学校を中心とした半径距離を表示しています。





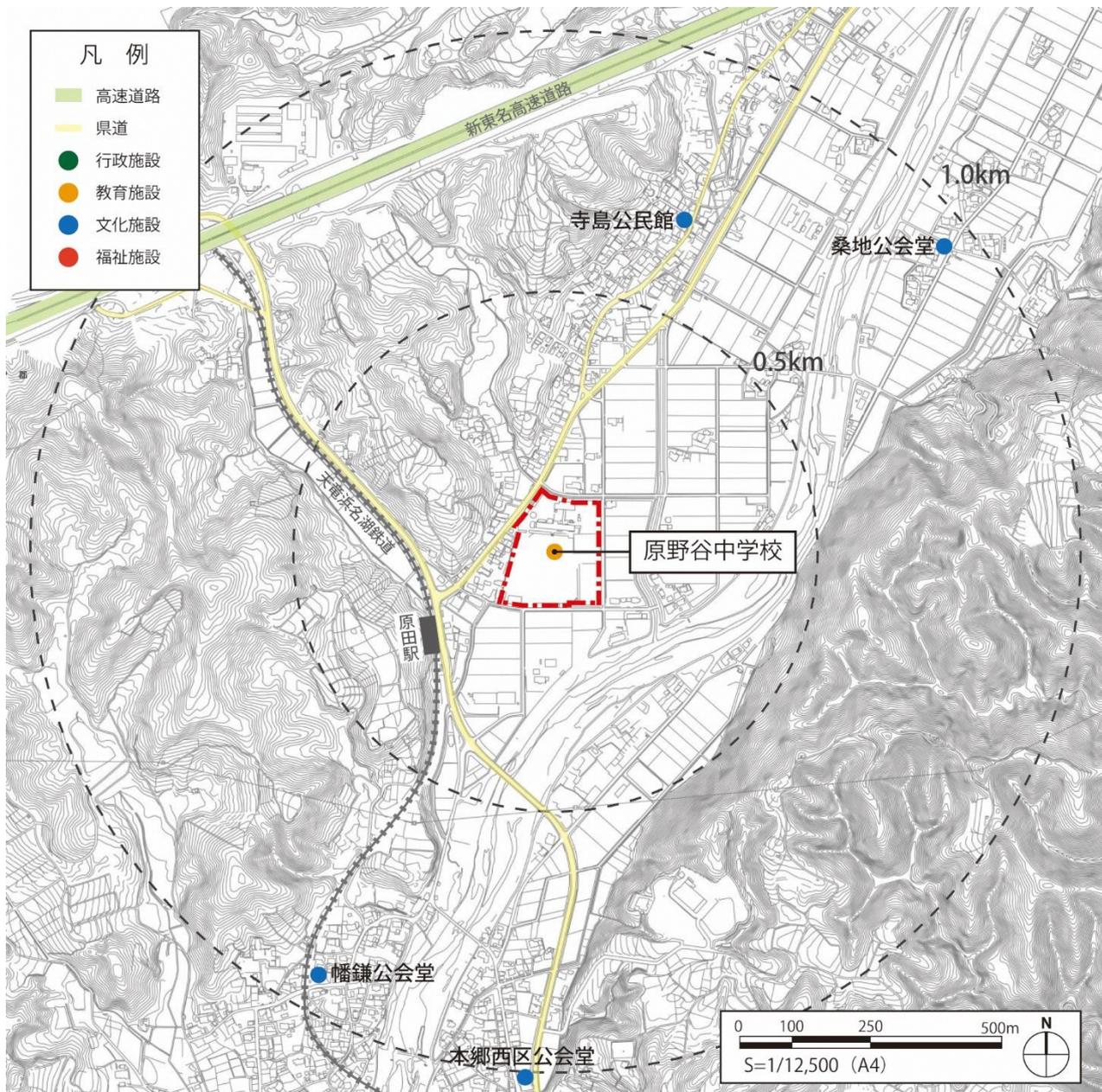
凡 例	
— (Red)	中学校区
— (Blue)	小学校区
— (Orange)	中学校
— (Light Orange)	小学校
— (Yellow)	こども園
● (Green)	公共施設
● (Grey)	公民館・集会所
● (Light Orange)	学童保育所
● (Red)	福祉施設
● (Purple)	観光施設



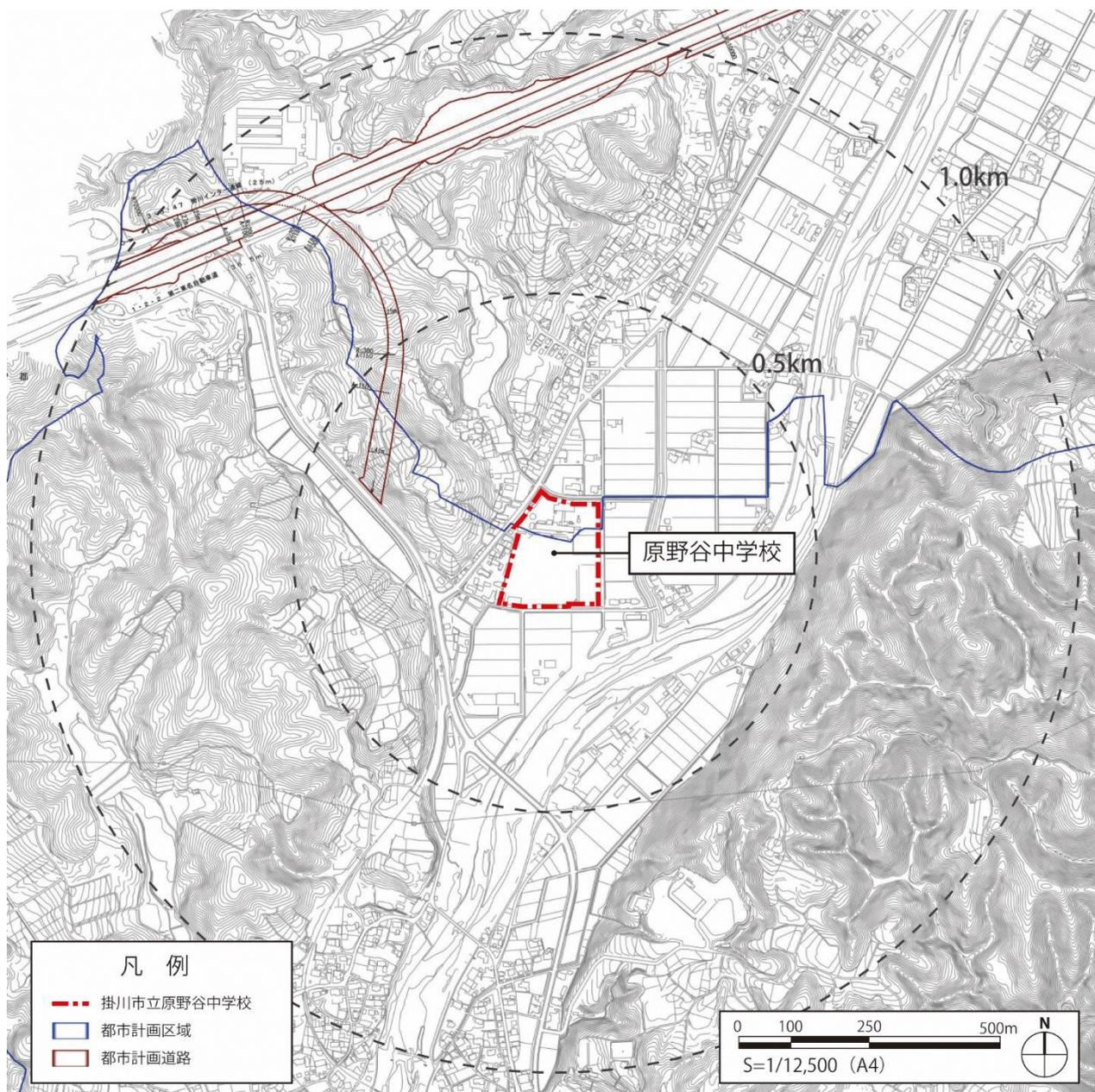
原野谷中学校区における学校敷地の現況

掛川市立原野谷中学校（掛川市寺島 15 番地）

【付近見取り図・周辺施設分布図】



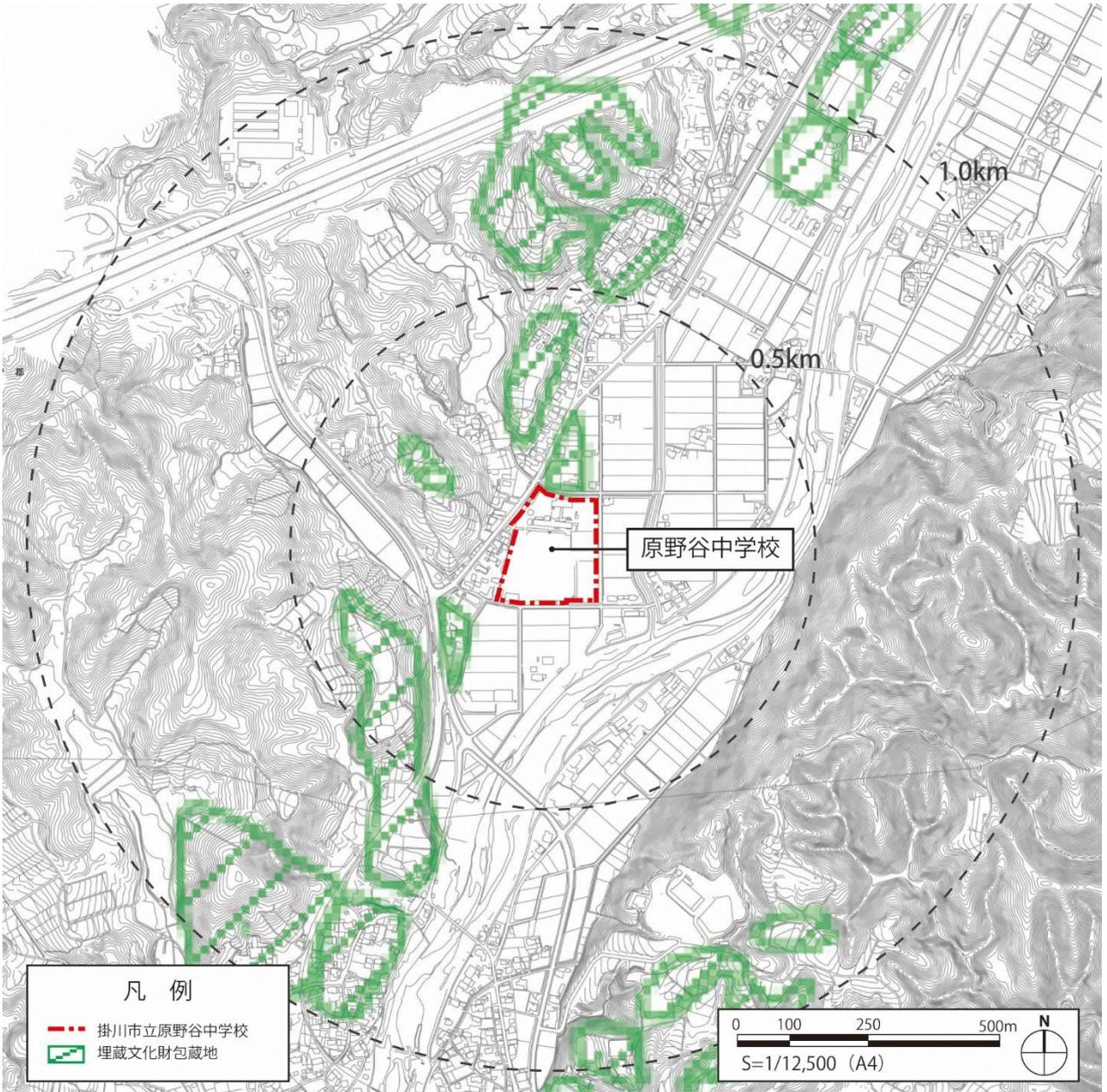
【都市計画道路図】



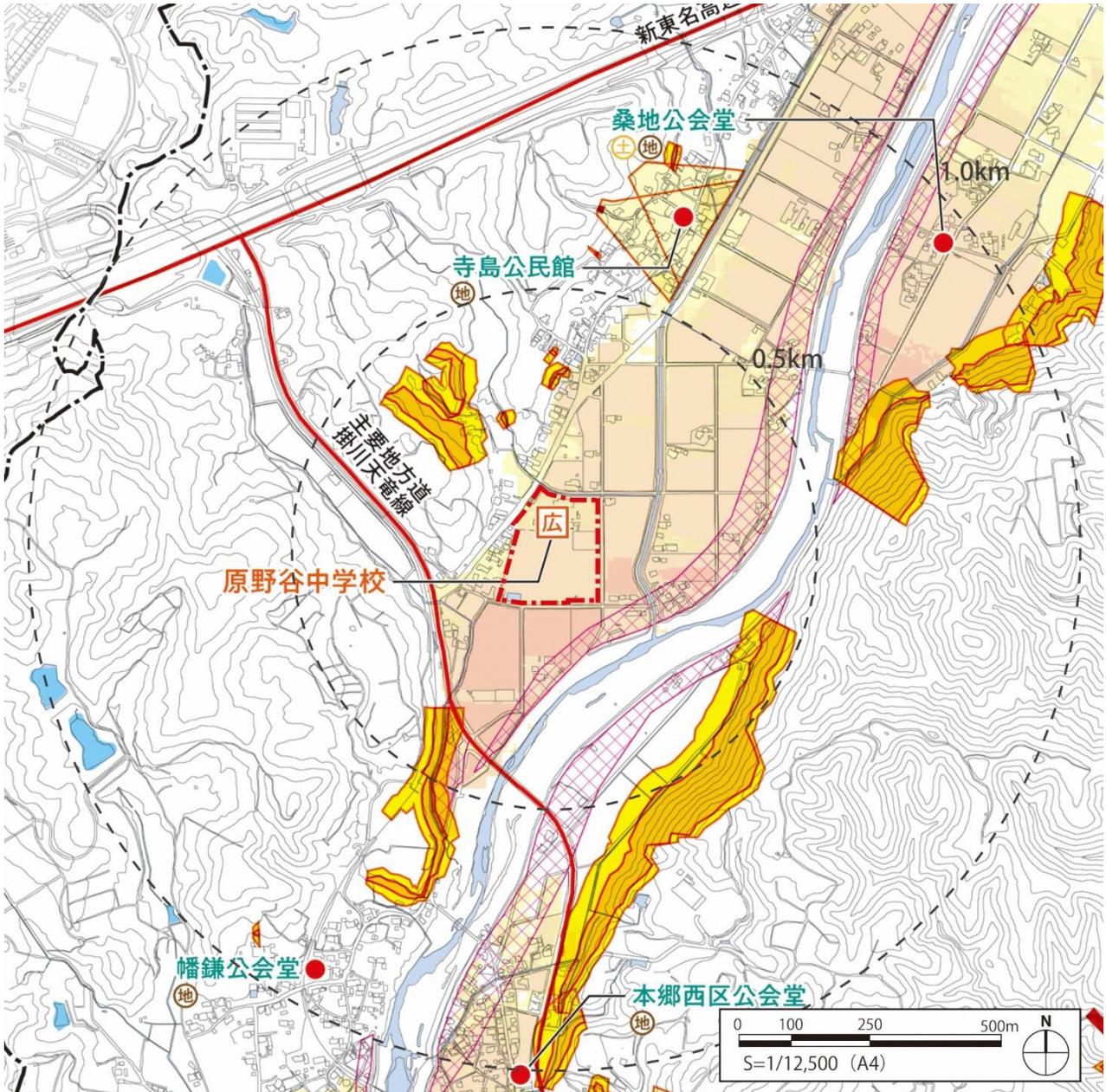
校舎側：都市計画区域外／用途地域指定なし

校庭側：都市計画区域内（非線引）／用途地域指定なし（容積率：200% 建蔽率：60%）

【埋蔵文化財包蔵地】



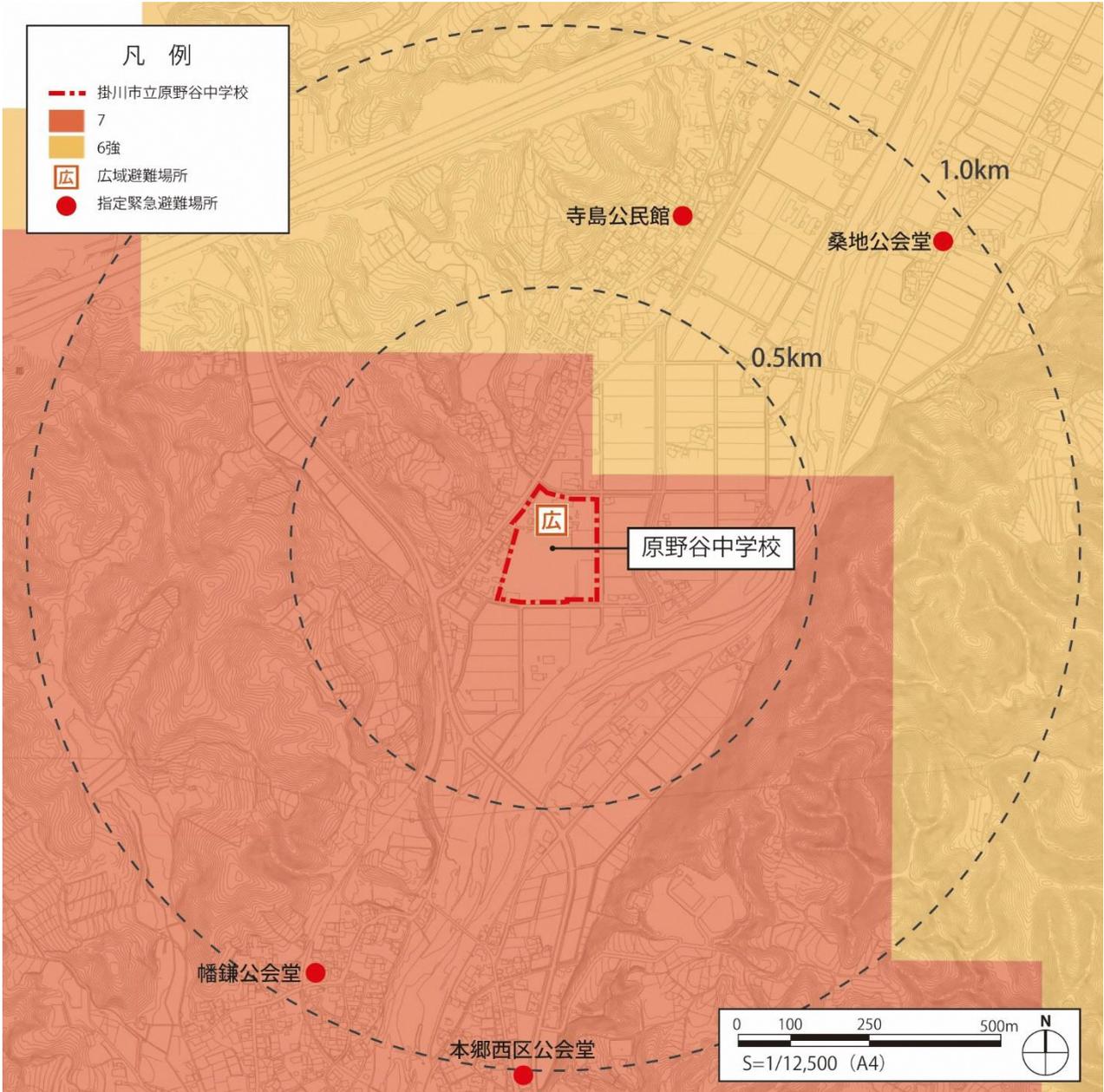
【洪水・土砂災害ハザードマップ】



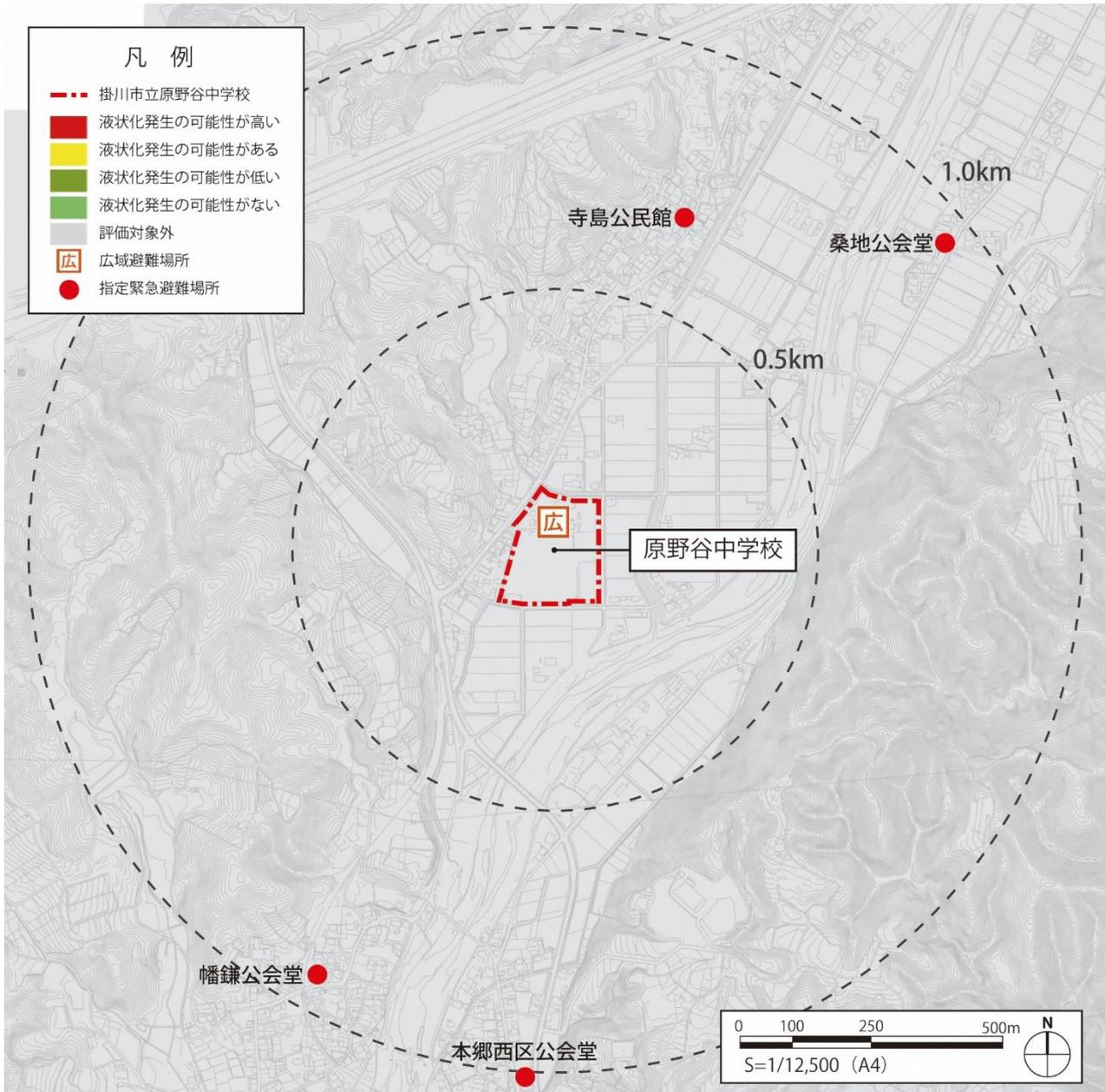
- | | | | | | | |
|---|--|----------------|--|---------------------------|--|-------------------------|
| 凡 | | 掛川市立原野谷中学校 | | <外水氾濫>
5.0m～10.0m未満の区域 | | <土石流>
土砂災害特別警戒区域 |
| | | 指定緊急避難場所 | | 3.0m～5.0m未満の区域 | | 土砂災害警戒区域 |
| 例 | | 消防署・消防団・消防活動拠点 | | 1.0m～3.0m未満の区域 | | <急傾斜地の崩壊>
土砂災害特別警戒区域 |
| | | ため池 | | 0.5m～1.0m未満の区域 | | 土砂災害警戒区域 |
| | | 家屋流失のおそれのある区域 | | 0.3m～0.5m未満の区域 | | <地すべり>
警戒区域 |
| | | 浸水実績 | | 0.3m未満の区域 | | <緊急輸送路>
一次緊急輸送路 |
| | | | | <内水氾濫>
1.0m～2.0m未満の区域 | | |
| | | | | 0.5m～1.0m未満の区域 | | |
| | | | | 0.2m～0.5m未満の区域 | | |

外水氾濫：0.5～3.0m 未満の区域

【南海トラフ地震 震度分布図】

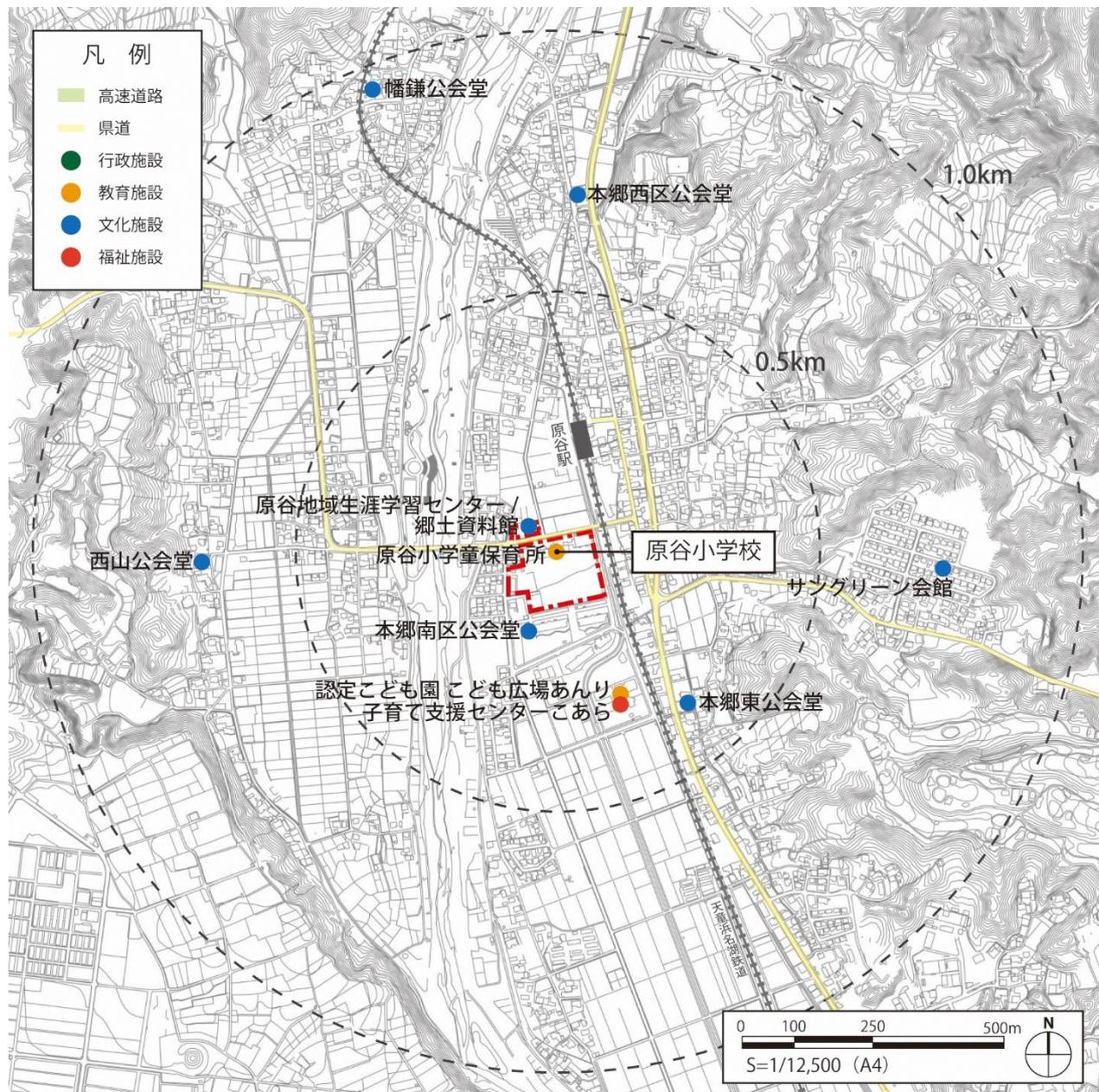


【南海トラフ地震 液状化危険度分布】

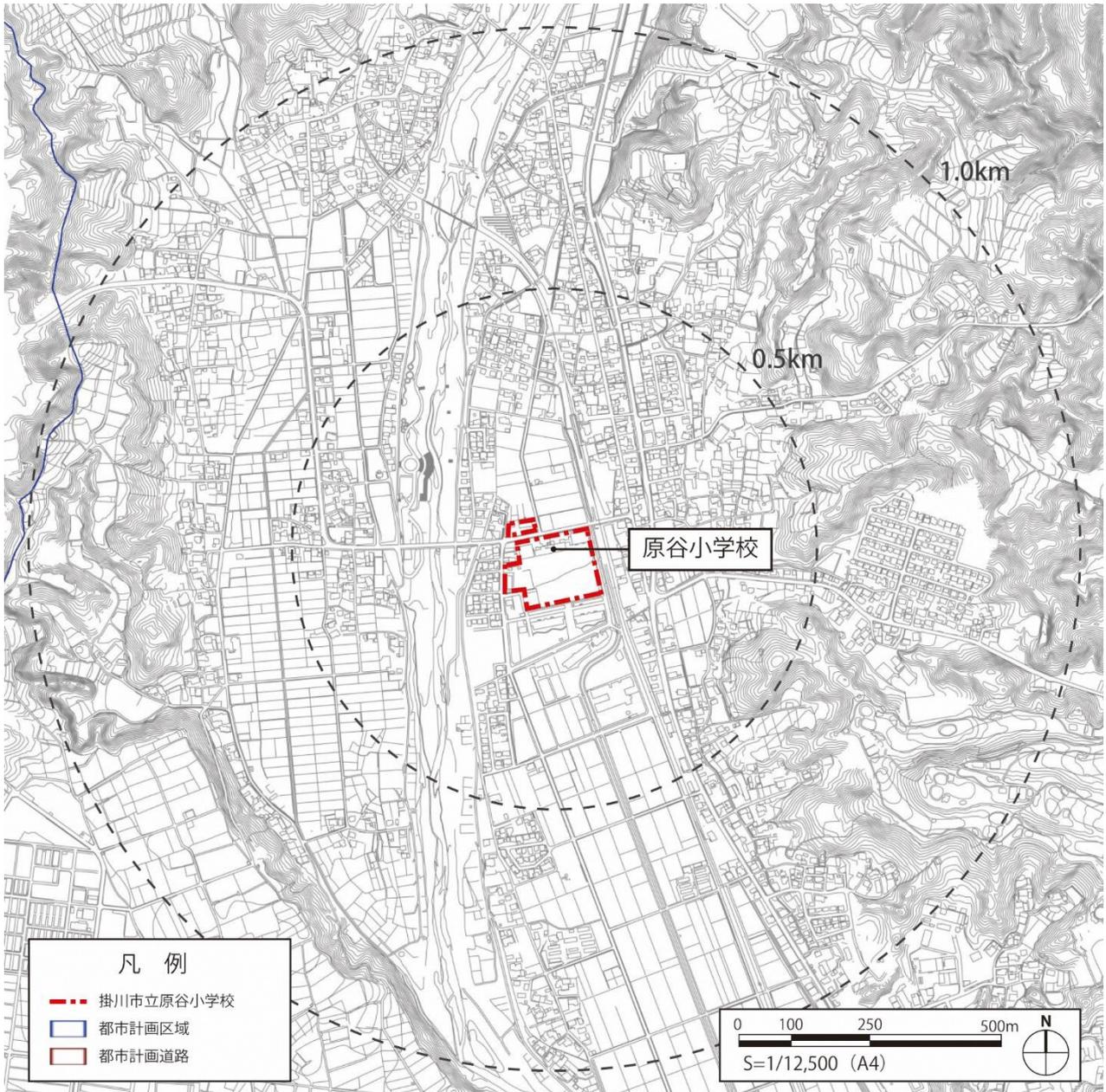


掛川市立原谷小学校（掛川市本郷 561 番地の 1）

【付近見取り図・周辺施設分布図】

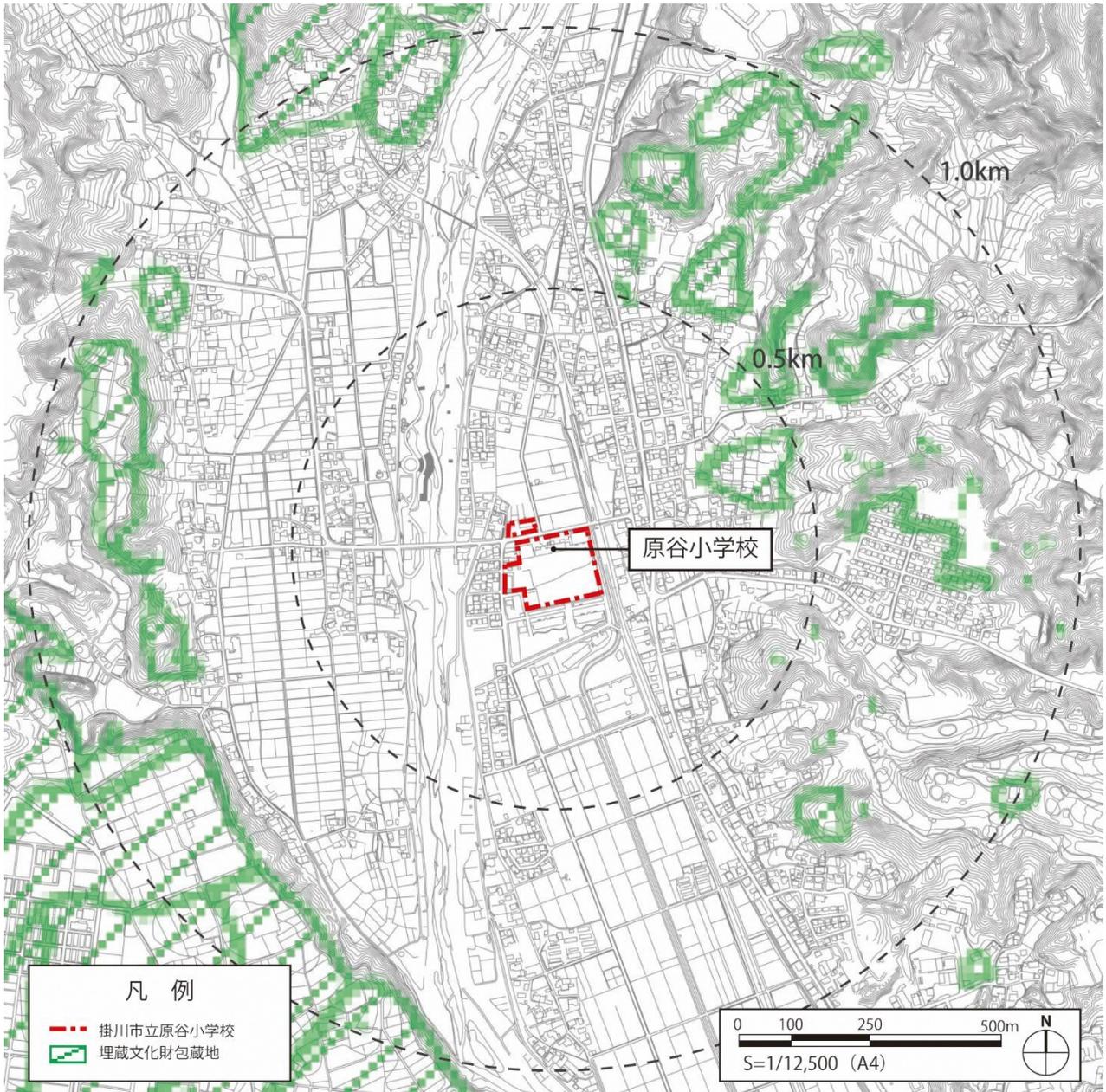


【都市計画道路図】

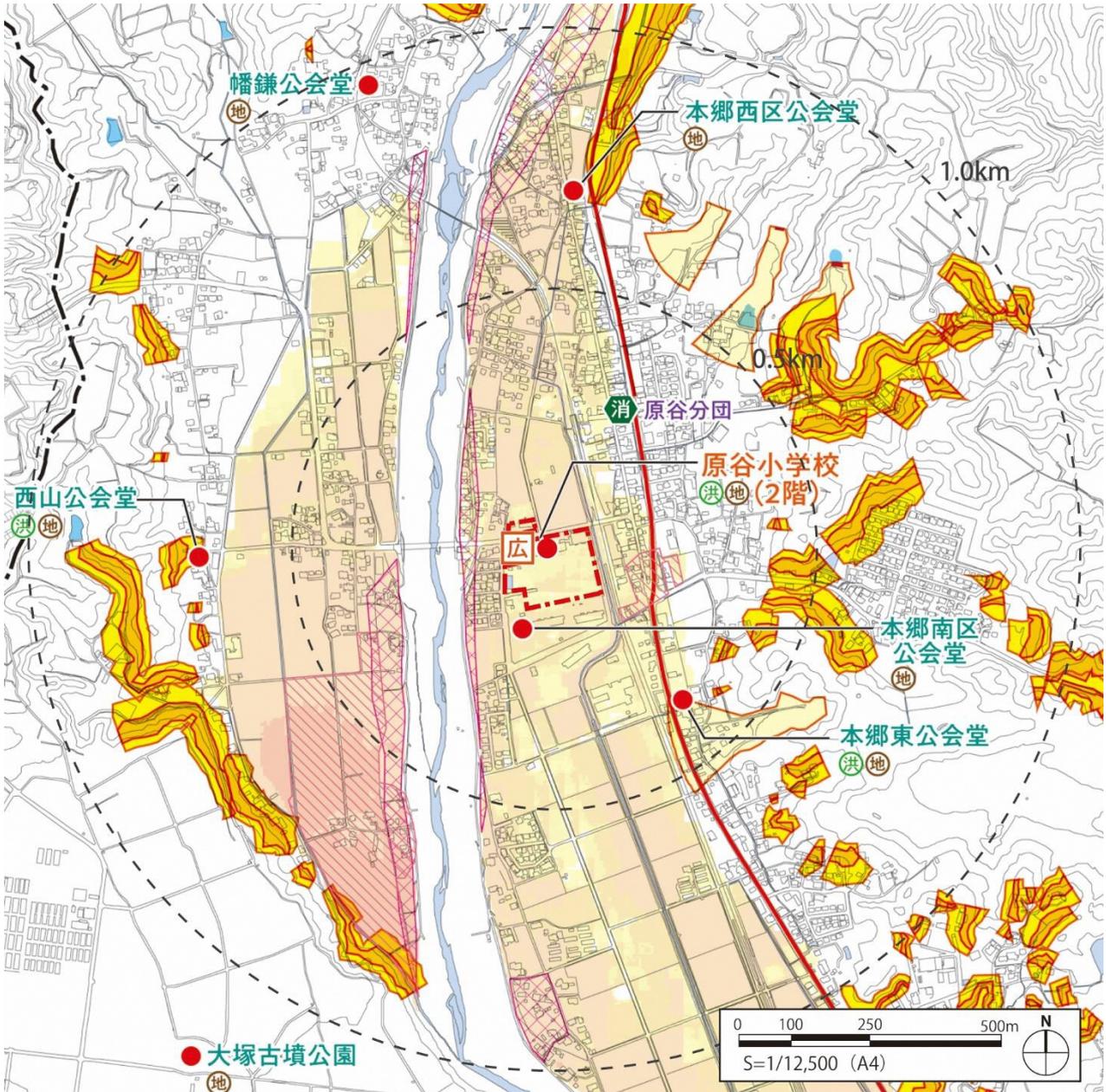


都市計画区域内（非線引）／用途地域指定なし（容積率：200% 建蔽率：60%）

【埋藏文化財包蔵地】



【洪水・土砂災害ハザードマップ】

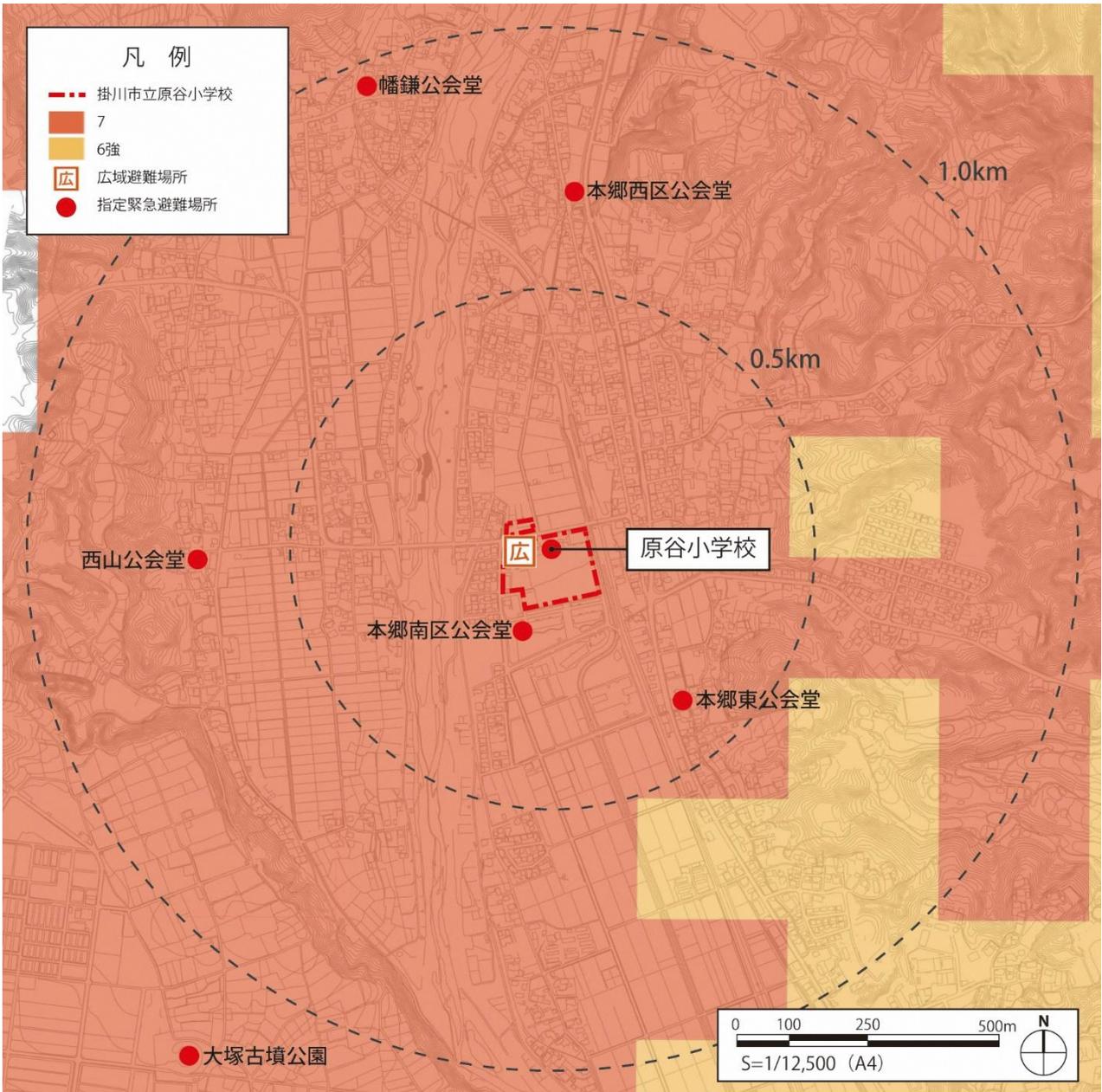


凡
例

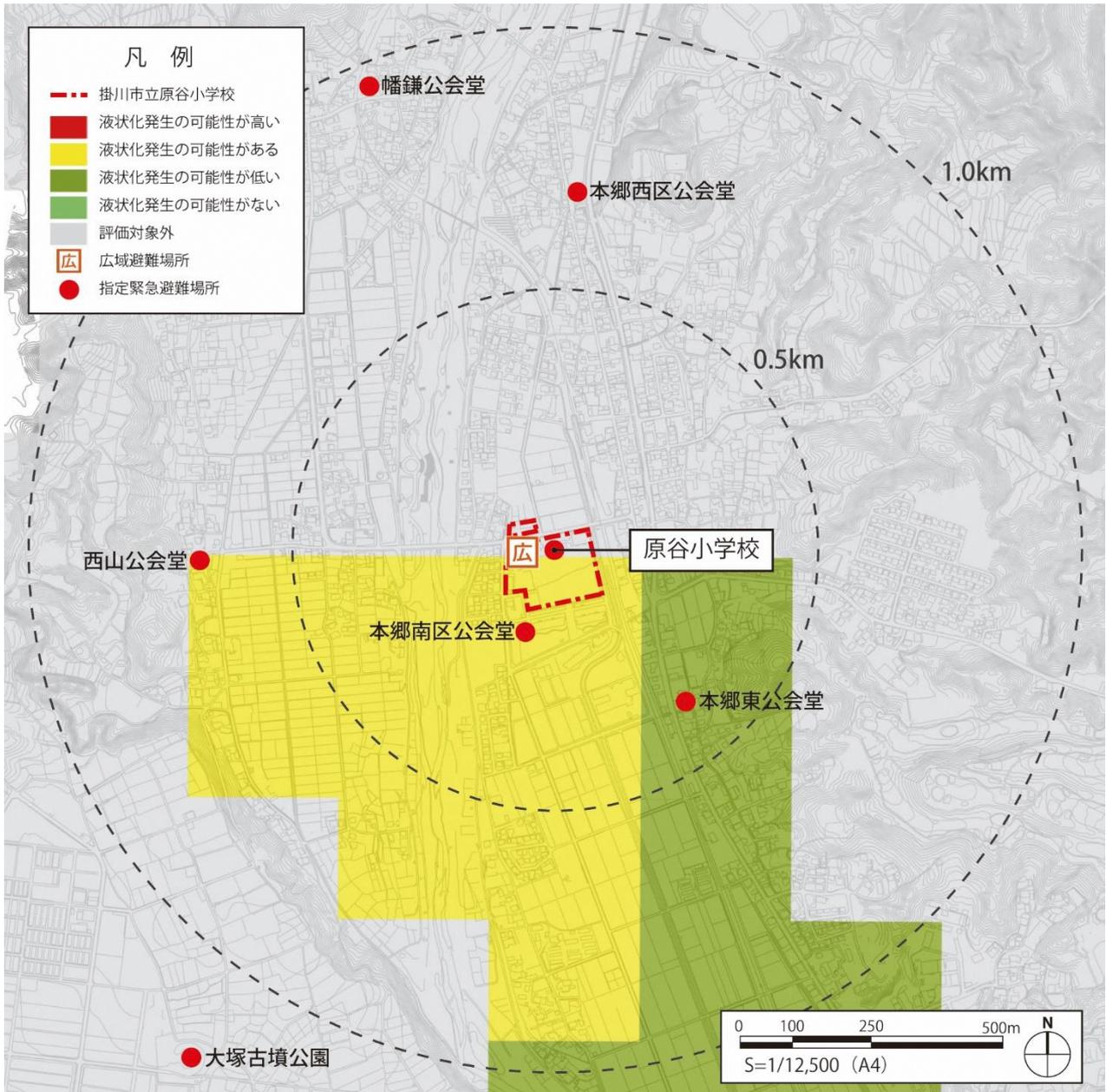
- | | | |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> --- 掛川市立原谷小学校 広 広域避難場所 ● 指定緊急避難場所 ⊙ 地震時 ⊕ 水害時 ⊙ 津波時 ⊕ 土砂災害時 消 消防署・消防団・消防活動拠点 ■ ため池 ■ 家屋流失のおそれのある区域 ■ 浸水実績 | <p><外水氾濫></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 5.0m~10.0m未満の区域 ■ 3.0m~5.0m未満の区域 ■ 1.0m~3.0m未満の区域 ■ 0.5m~1.0m未満の区域 ■ 0.3m~0.5m未満の区域 ■ 0.3m未満の区域 <p><内水氾濫></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1.0m~2.0m未満の区域 ■ 0.5m~1.0m未満の区域 ■ 0.2m~0.5m未満の区域 | <ul style="list-style-type: none"> ■ <土石流> ■ 土砂災害特別警戒区域 ■ 土砂災害警戒区域 ■ <急傾斜地の崩壊> ■ 土砂災害特別警戒区域 ■ 土砂災害警戒区域 ■ <地すべり> ■ 警戒区域 ■ <緊急輸送路> ■ 一次緊急輸送路 |
|---|---|--|

外水氾濫：0.3~3.0m 未満の区域

【南海トラフ地震 震度分布図】

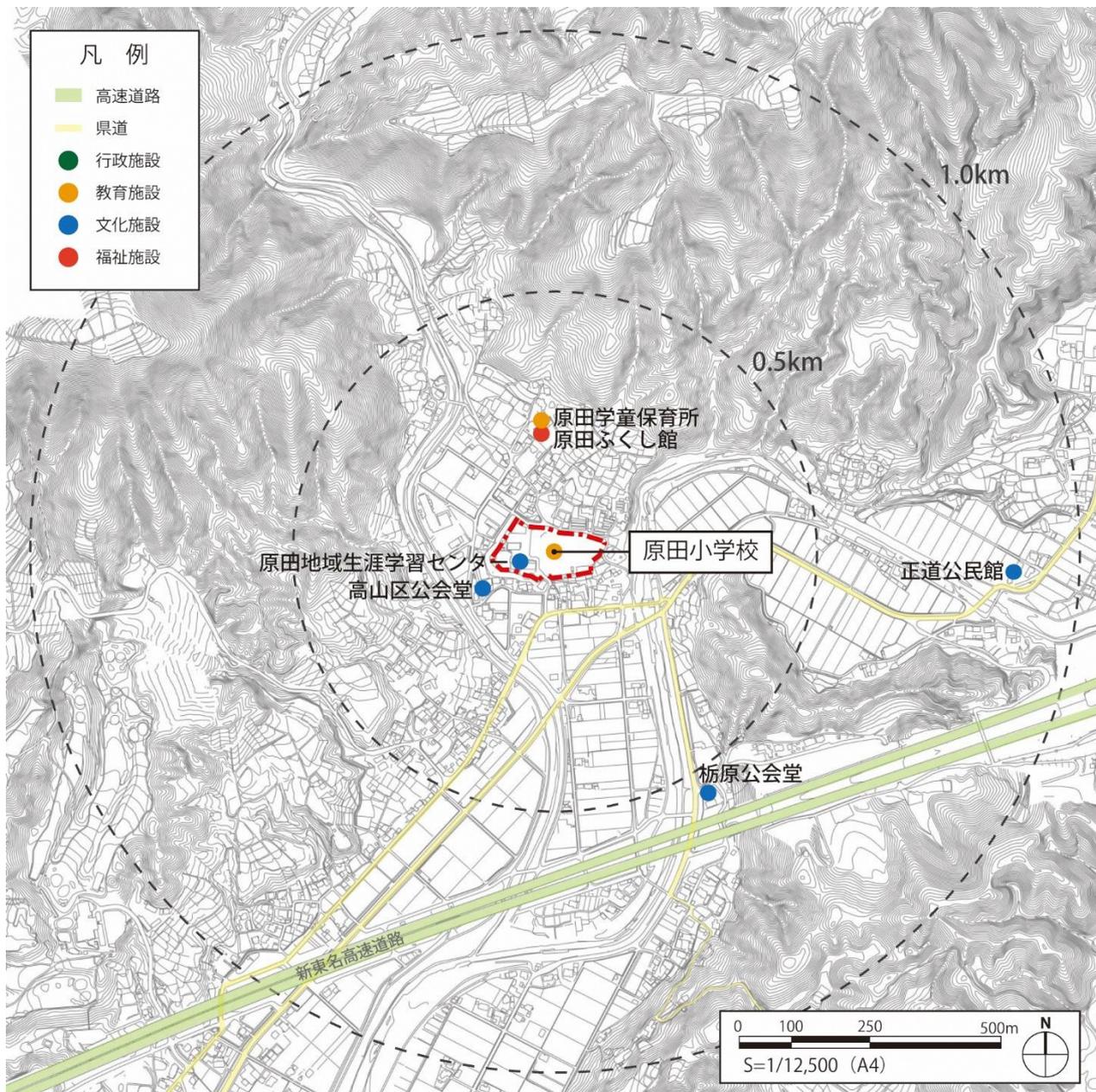


【南海トラフ地震 液状化危険度分布】

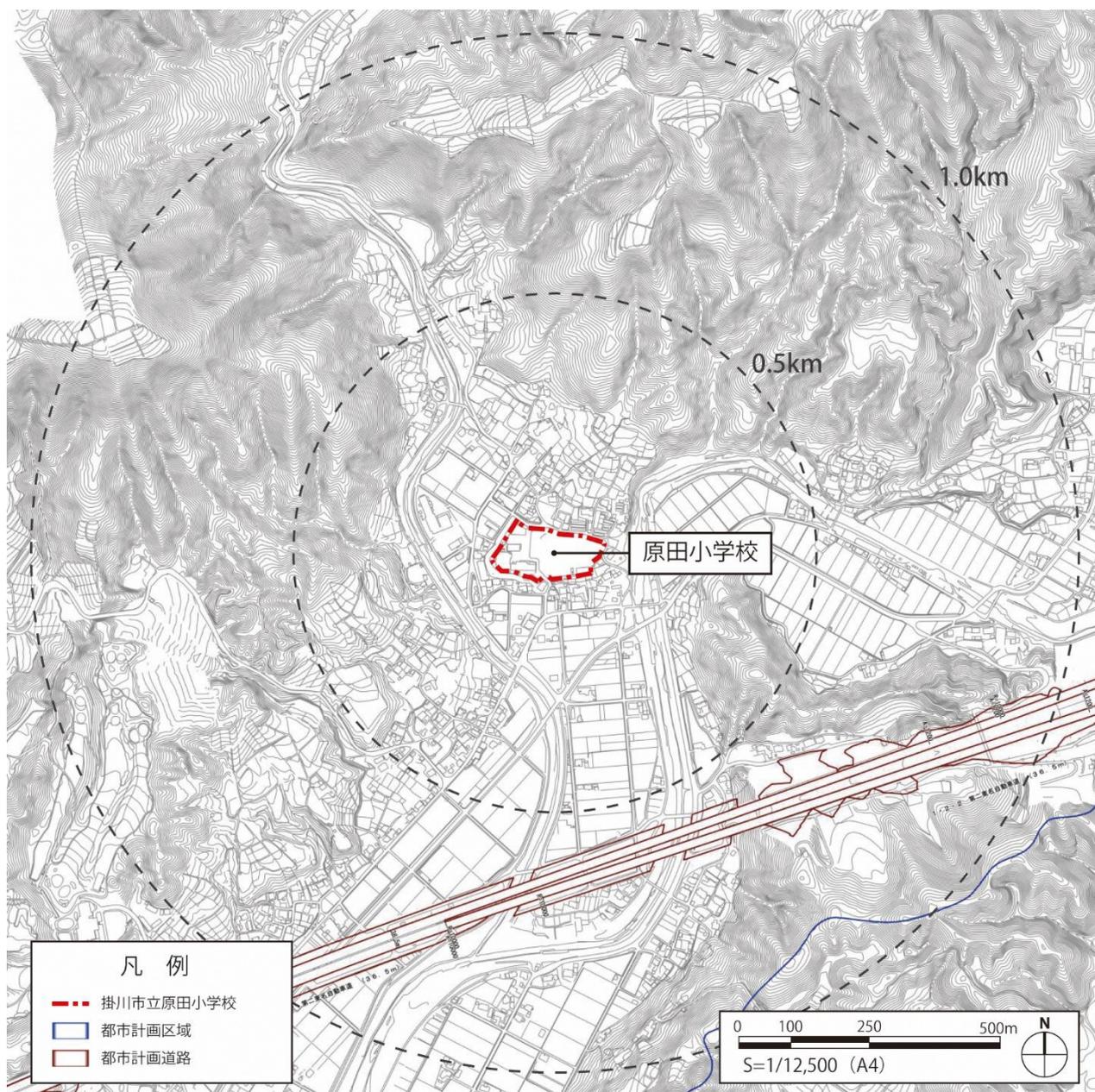


掛川市立原田小学校（掛川市原里 1623 番地の 1）

【付近見取り図・周辺施設分布図】

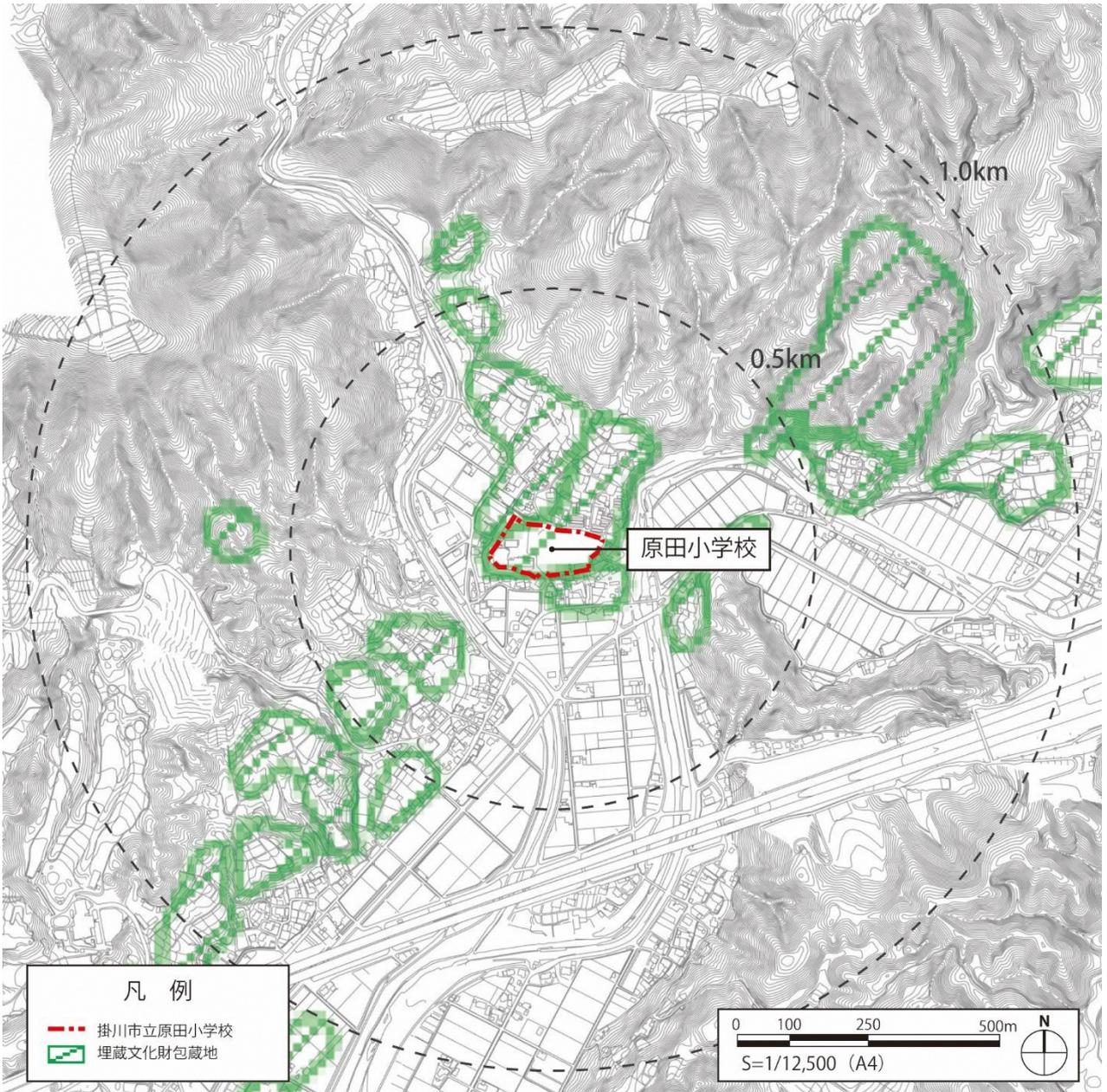


【都市計画道路図】



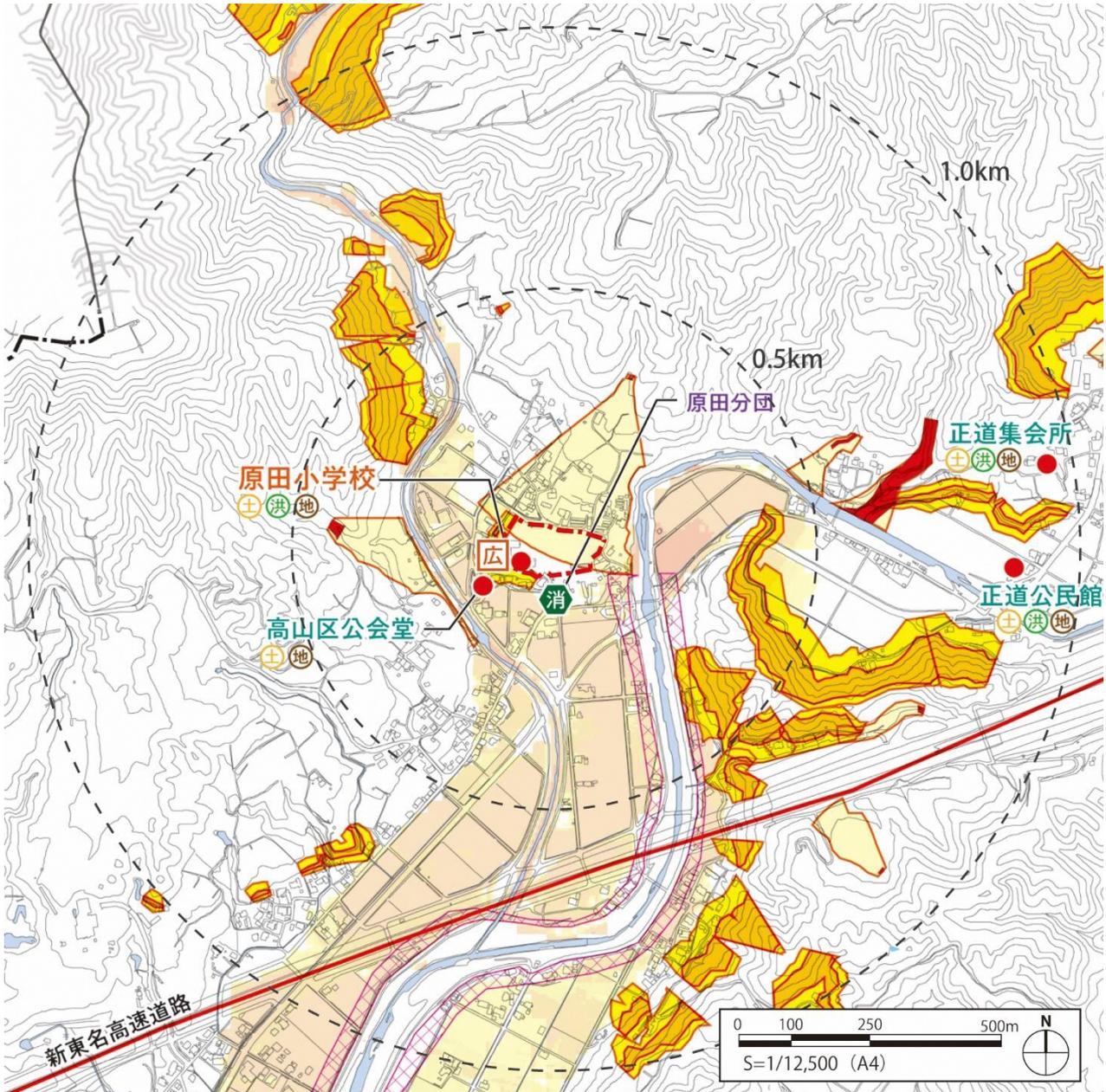
都市計画区域外／用途地域指定なし

【埋蔵文化財包蔵地】



埋蔵文化財包蔵地内

【洪水・土砂災害ハザードマップ】

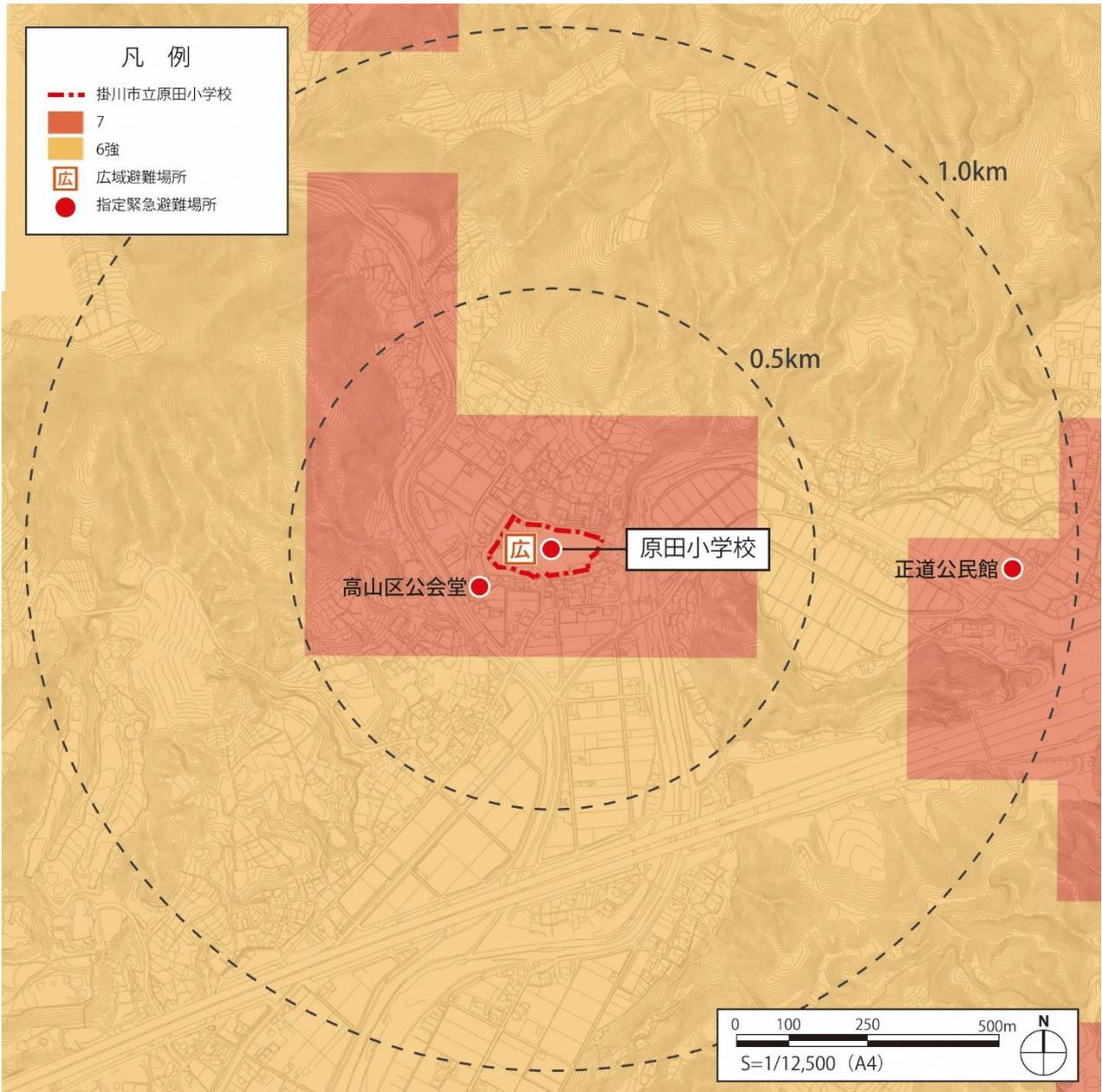


凡
例

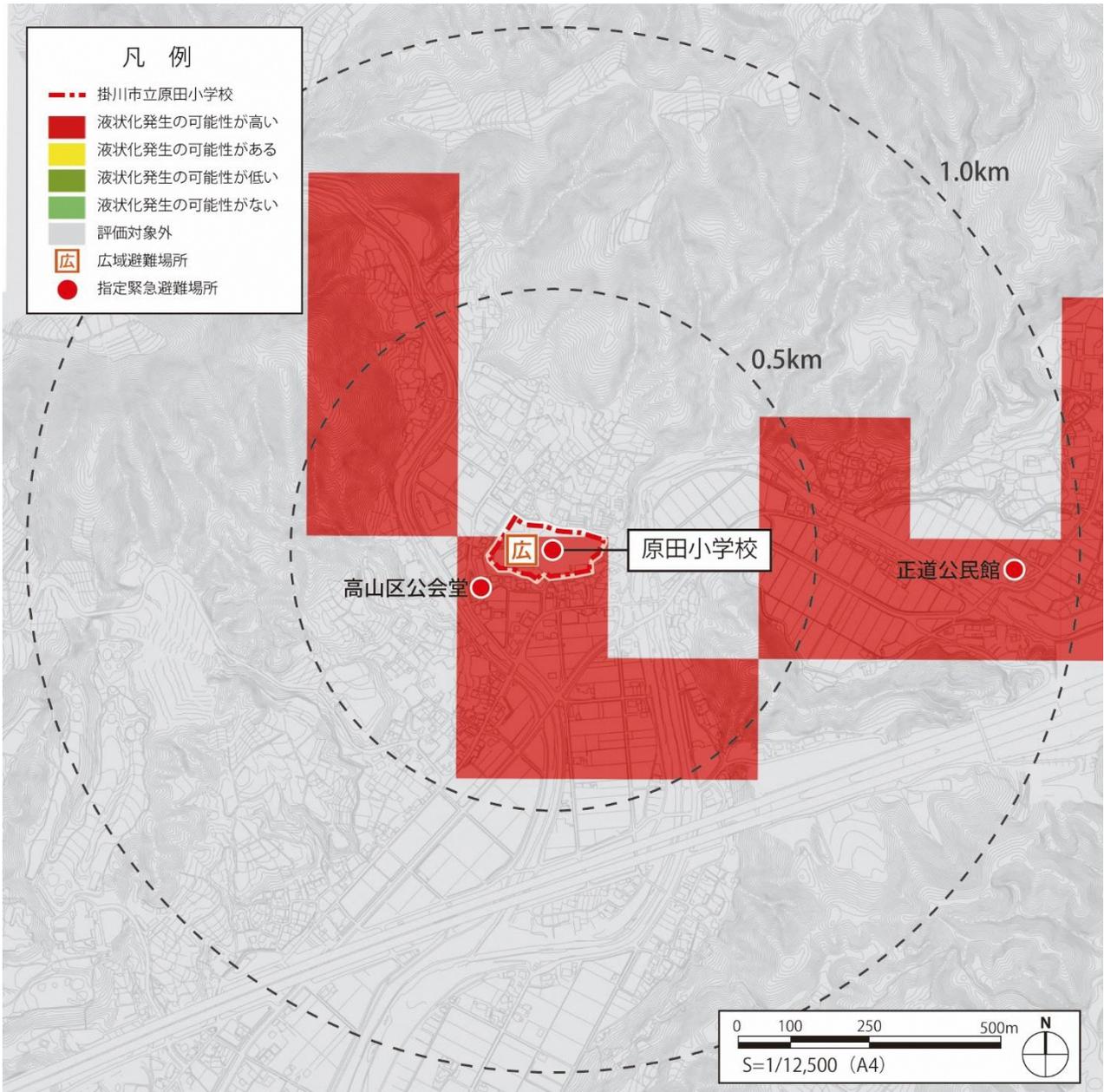
- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> --- 掛川市立原田小学校 □ 広域避難場所 ● 指定緊急避難場所 ⊕ 地震時 洪水時 ⊕ 津波時 ⊕ 土砂災害時 消 消防署・消防団・消防活動拠点 ため池 家屋流失のおそれのある区域 浸水実績 | <p><外水氾濫></p> <ul style="list-style-type: none"> 5.0m～10.0m未満の区域 3.0m～5.0m未満の区域 1.0m～3.0m未満の区域 0.5m～1.0m未満の区域 0.3m～0.5m未満の区域 0.3m未満の区域 <p><内水氾濫></p> <ul style="list-style-type: none"> 1.0m～2.0m未満の区域 0.5m～1.0m未満の区域 0.2m～0.5m未満の区域 | <p><土石流></p> <ul style="list-style-type: none"> 土砂災害特別警戒区域 土砂災害警戒区域 <p><急傾斜地の崩壊></p> <ul style="list-style-type: none"> 土砂災害特別警戒区域 土砂災害警戒区域 <p><地すべり></p> <ul style="list-style-type: none"> 警戒区域 <p><緊急輸送路></p> <ul style="list-style-type: none"> 一次緊急輸送路 |
|---|---|---|

土砂災害：土石流警戒区域、急傾斜地の崩壊警戒区域

【南海トラフ地震 震度分布図】



【南海トラフ地震 液状化危険度分布】

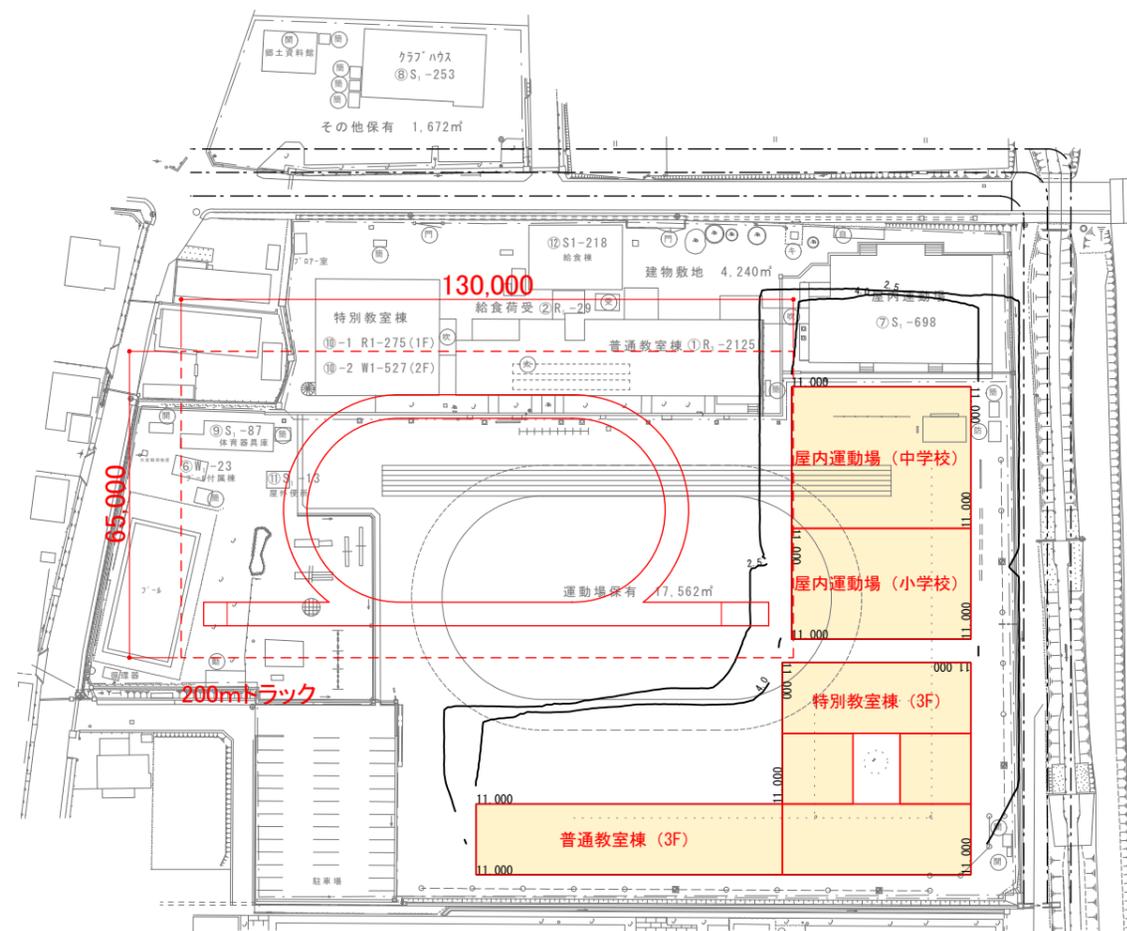
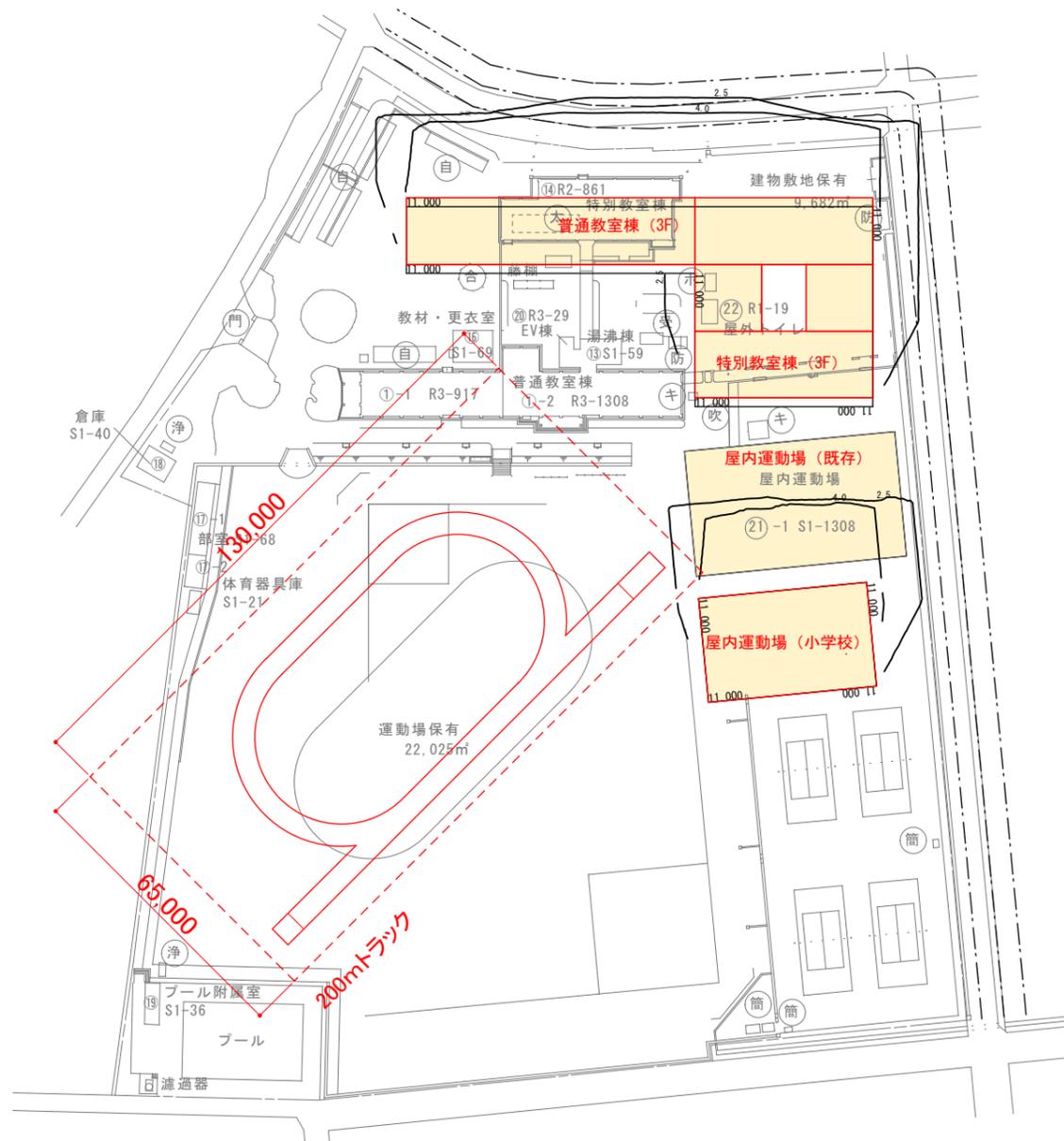


■原野谷中学校・原谷小学校の配置比較例

本図は敷地を比較するための図であり、具体的な配置計画・平面計画は基本設計段階にておこないます。

原野谷中学校敷地

原谷小学校敷地



小中一貫校の校舎・体育館
 ※校舎は3階建て、延床面積は約7,800㎡の場合の仮配置です。

小中一貫校の校舎・体育館
 ※校舎は3階建て、延床面積は約7,800㎡の場合の仮配置です。

